参考資料

速　報　値

下川町　これからのまちづくりに向けたアンケート調査

速報値報告書

下川町

目次

調査概要・・ 3 ページ
単純集計・・ 4 ページ
自由回答・・・ 30 ページ
付録　クロス集計・・・ 33 ページ

速報値

調査概要

調査対象	令和８年４月１日現在、下川町に住民票がある 18 歳以上の者
調査期間	令和８年４月 28 日（火）～ 令和８年６月７日（日）までに回収した調査票
調査方法	配布は郵送／回収は郵送とインターネットの併用
配布数	2,404 票
回収数・回収率	有効回収数　1,218 票　／　有効回収率　50.7% （内訳：　郵送 853 票 インターネット 365 票）

※ 本報告書は速報値であり、データクリーニング実施前の集計結果を示しています。そのため、確定版において数値が変更となる場合があります。また、確定版では誤字脱字や表記の修正を行います。

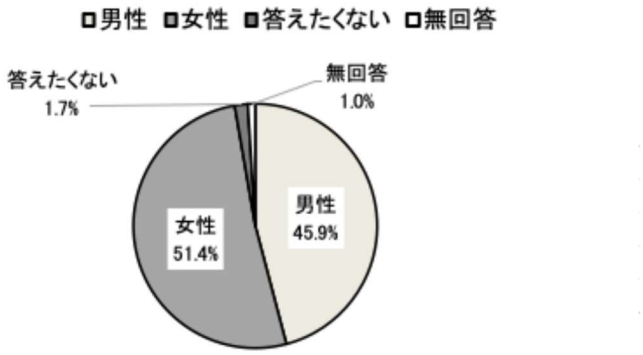
※ 集計は有効回答を対象としています。端数処理の関係で、合計が 100%にならない場合があります。

単純集計

【問１】あなたの性別を教えてください。

Q1 性別

	度数	有効パーセント
男性	559	45.9
女性	626	51.4
答えたくない	21	1.7
無回答	12	1.0
合計	1218	100.0

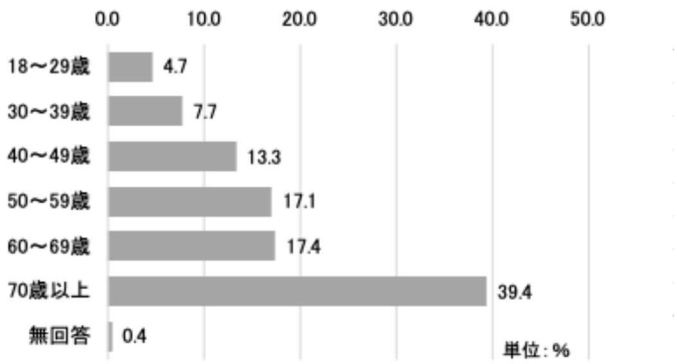


回答者の性別構成をみると、「男性」が 559 人（45.9%）、「女性」が 626 人（51.4%）、「答えたくない」が 21 人（1.7%）、「無回答」が 12 人（1.0%）であった。性別の内訳では、女性が男性をやや上回っている。

【問２】令和８年４月１日現在で何歳ですか。

Q2 年齢

	度数	有効パーセント
18～29歳	57	4.7
30～39歳	94	7.7
40～49歳	162	13.3
50～59歳	208	17.1
60～69歳	212	17.4
70歳以上	480	39.4
無回答	5	0.4
合計	1218	100.0



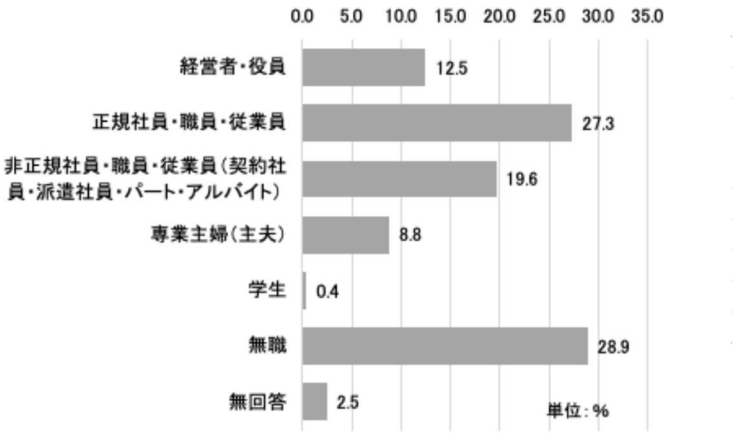
回答者の年齢構成をみると、「70 歳以上」が 480 人（39.4%）と最も多く、次いで「60～69 歳」が 212 人（17.4%）、「50～59 歳」が 208 人（17.1%）となっており、50 歳以上の回答者が全体の７割以上を占めている。一方、「18～29 歳」は 57 人（4.7%）、「30～39 歳」は 94 人（7.7%）と、若年層の割合は相対的に低い。

年齢構成全体としては高齢層の占める割合が高く、特に 70 歳以上が 4 割近くを占めていることが特徴的である。若年・中年層の意向を把握する上では、この年齢構成の偏りに留意する必要がある。

【問３】就業状況は、次のどれにあたりますか。

Q3 就業状況

	度数	有効パーセント
経営者・役員	152	12.5
正規社員・職員・従業員	333	27.3
非正規社員・職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト）	239	19.6
専業主婦（主夫）	107	8.8
学生	5	0.4
無職	352	28.9
無回答	30	2.5
合計	1218	100.0



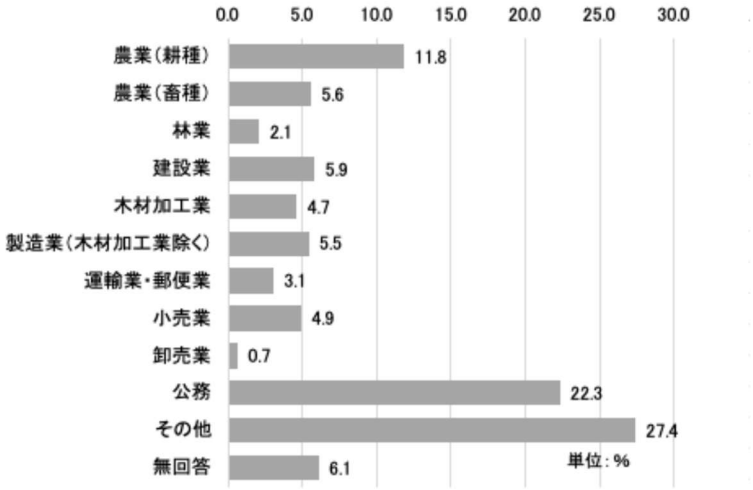
回答者の職業構成をみると、「正規社員・職員・従業員」が 333 人（27.3%）と最も多く、次いで「無職」が 352 人（28.9%）、「非正規社員・職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト）」が 239 人（19.6%）となっている。また、「経営者・役員」が 152 人（12.5%）、「専業主婦（主夫）」が 107 人（8.8%）、「学生」が 5 人（0.4%）、「無回答」が 30 人（2.5%）であった。

職業構成全体としては、無職と正規社員・職員・従業員の 2 区分で全体の過半数を占めており、問 2 で確認された高齢層の割合の高さが無職の多さにも反映されているものと考えられる。

【問４】働いている人におたずねします。業種は次のどれにあたりますか。

Q4 業種

	度数	有効パーセント
農業（耕種）	89	11.8
農業（畜種）	42	5.6
林業	16	2.1
建設業	44	5.9
木材加工業	35	4.7
製造業（木材加工業除く）	41	5.5
運輸業・郵便業	23	3.1
小売業	37	4.9
卸売業	5	0.7
公務	168	22.3
その他	206	27.4
無回答	46	6.1
合計	752	100.0
非該当	466	
合計	1218	



本設問は職業従事者 752 人を対象とした設問であり、従事する産業構成をみると、「その他」が 206 人（27.4%）と最も多く、次いで「公務」が 168 人（22.3%）、「農業（耕種）」が 89 人（11.8%）となっている。以下、「農業（畜産）」が 42 人（5.6%）、「建設業」が 44 人（5.9%）、「製造業（木材加工業除く）」が 41 人（5.5%）、「木材加工業」が 35 人（4.7%）、「小売業」が 37 人（4.9%）と続いている。

産業構成全体としては、公務従事者が 2 割を占めるとともに、農業（耕種・畜産）を合わせると約 17%に達している。なお、表中の「非該当」は働いていない回答者を指している。

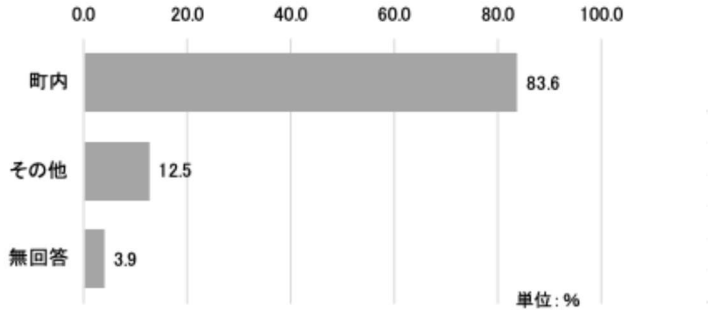
以下は「その他」の自由回答欄に記載された内容を仮集計したものである。これらについては、今後、業種別に振り分けを行う可能性がある。

その他	件数
サービス業系	30
介護・福祉系	20
その他・不明	27
会社員・事務系	7
公務員・行政系	7
警備・清掃系	6
医療系	9
農業・農産物系	9
飲食・調理系	9
教育系	5
宿泊・接客系	5
建設・製造・技術系	5
金融系	4
保育系	2

【問５】働いている人におたずねします。通勤地はどこですか。

Q5 通勤地

	度数	有効パーセント
町内	629	83.6
その他	94	12.5
無回答	29	3.9
有効回答合計	752	100.0
非該当	466	
合計	1218	

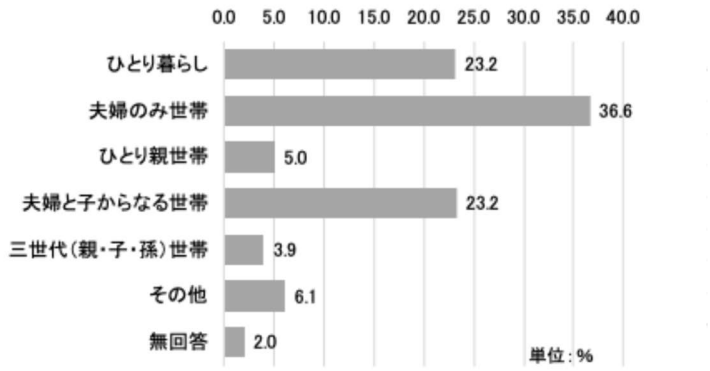


回答者の居住地域をみると、「町内」が 629 人（83.6%）と大多数を占めており、「その他」が 94 人（12.5%）、「無回答」が 29 人（3.9%）となっている。なお、表中の「非該当」は働いていない回答者を指している。

【問６】同居の家族構成は、どれにあたりますか。

Q6 家族構成

	度数	有効パーセント
ひとり暮らし	282	23.2
夫婦のみ世帯	446	36.6
ひとり親世帯	61	5.0
夫婦と子からなる世帯	283	23.2
三世代（親・子・孫）世帯	48	3.9
その他	74	6.1
無回答	24	2.0
合計	1218	100.0



回答者の世帯構成をみると、「夫婦のみの世帯」が 446 人（36.6%）と最も多く、次いで「夫婦と子からなる世帯」が 283 人（23.2%）、「ひとり暮らし」が 282 人（23.2%）となっている。以下、「ひとり親世帯」が 61 人（5.0%）、「その他」が 74 人（6.1%）、「三世代（親・子・孫）世帯」が 48 人（3.9%）、「無回答」が 24 人（2.0%）であった。

世帯構成全体としては、「夫婦のみの世帯」が最も高い割合を占めており、【参考】の通り、年齢別に集計したところ、60～69 歳で 48.3%、70 歳以上で 50.2%と高齢層に集中していることから、子どもが独立した後の高齢夫婦世帯が相当数含まれているものと推察される。また、「ひとり暮らし」は全体の約 4 分の 1 を占めており、18 歳から 29 歳では 36.8%を占めるほか、70 歳以上でも 26.5%に達している。一方、「夫婦と子からなる世帯」は 30～39 歳で 60.9%、40～49 歳で 46.3%と子育て世代に集中している。

【参考】年齢と家族構成のクロス集計表

Q2 年齢 と Q6 家族構成 のクロス表

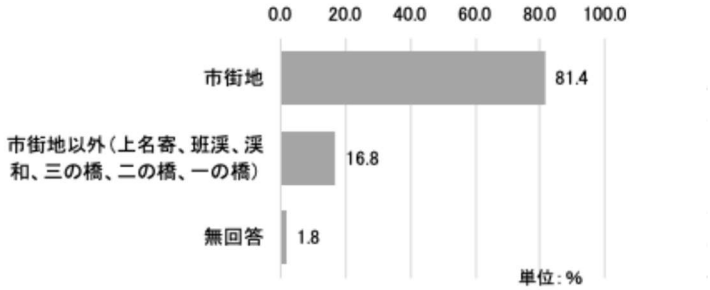
			Q6 家族構成						
			ひとり暮らし	夫婦のみ世帯	ひとり親世帯	夫婦と子からなる世帯	三世代（親・子・孫）世帯	その他	合計
Q2 年齢	18～29歳	度数	21	10	5	19	2	0	57
		Q2 年齢 の %	36.8%	17.5%	8.8%	33.3%	3.5%	0.0%	100.0%
	30～39歳	度数	20	6	4	56	2	4	92
		Q2 年齢 の %	21.7%	6.5%	4.3%	60.9%	2.2%	4.3%	100.0%
	40～49歳	度数	28	26	15	75	13	5	162
		Q2 年齢 の %	17.3%	16.0%	9.3%	46.3%	8.0%	3.1%	100.0%
	50～59歳	度数	42	68	11	62	5	18	206
		Q2 年齢 の %	20.4%	33.0%	5.3%	30.1%	2.4%	8.7%	100.0%
	60～69歳	度数	48	102	10	21	12	18	211
		Q2 年齢 の %	22.7%	48.3%	4.7%	10.0%	5.7%	8.5%	100.0%
	70歳以上	度数	123	233	16	50	14	28	464
		Q2 年齢 の %	26.5%	50.2%	3.4%	10.8%	3.0%	6.0%	100.0%
合計		度数	282	445	61	283	48	73	1192
		Q2 年齢 の %	23.7%	37.3%	5.1%	23.7%	4.0%	6.1%	100.0%

注）クロス集計表の作成にあたっては、無回答を除外しているため、単純集計の合計数と一致しない場合がある。

【問７】居住地域を教えてください。

Q7 居住地域

	度数	有効パーセント
市街地	991	81.4
市街地以外（上名寄、班渓、渓和、三の橋、二の橋、一の橋）	205	16.8
無回答	22	1.8
合計	1218	100.0



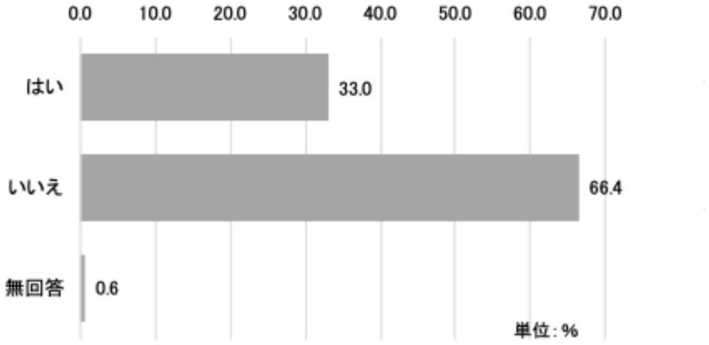
回答者の居住地域をみると、「市街地」が 991 人（81.4%）と大多数を占めており、「市街地以外（上名寄、班渓、淡和、三の橋、二の橋、一の橋）」が 205 人（16.8%）、「無回答」が 22 人（1.8%）となっている。

居住地域の構成としては、市街地在住者が 8 割以上を占めており、本調査の回答は主として市街地住民の意向を反映したものとなっている。一方、市街地以外の地区に居住する住民も約 17%含まれており、地区間の意向の差異について、分析の際に留意することが望ましい。

【問８】下川町の出身ですか。

Q8 下川町出身か

	度数	有効パーセント
はい	402	33.0
いいえ	809	66.4
無回答	7	0.6
合計	1218	100.0



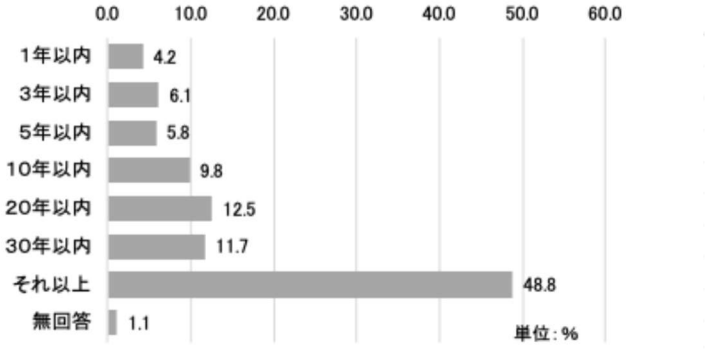
回答者の出身地についてみると、「はい（下川町出身）」が 402 人（33.0%）、「いいえ（下川町出身ではない）」が 809 人（66.4%）、「無回答」が 7 人（0.6%）となっている。

出身地の構成としては、下川町出身以外の回答者が全体の 3 分の 2 以上を占めており、町外からの転入者が住民の多数を形成していることが確認できる。

【問９】下川町に移住されてどのくらい経ちましたか

Q9 移住年数

	度数	有効パーセント
１年以内	34	4.2
３年以内	50	6.1
５年以内	47	5.8
１０年以内	80	9.8
２０年以内	102	12.5
３０年以内	95	11.7
それ以上	397	48.8
無回答	9	1.1
有効回答合計	814	100.0
非該当	404	
合計	1218	



町外出身者（有効回答 814 人）[1]の居住年数をみると、「それ以上（30 年超）」が 397 人（48.8%）と最も多く、約半数を占めている。次いで「20 年以内」が 102 人（12.5%）、「30 年以内」が 95 人（11.7%）、「10 年以内」が 80 人（9.8%）となっており、居住年数が長い層が全体の大多数を形成している。そして「1 年以内」は 34 人（4.2%）、「3 年以内」は 50 人（6.1%）、「5 年以内」は 47 人（5.8%）と、比較的新しい転入者の割合は低い。

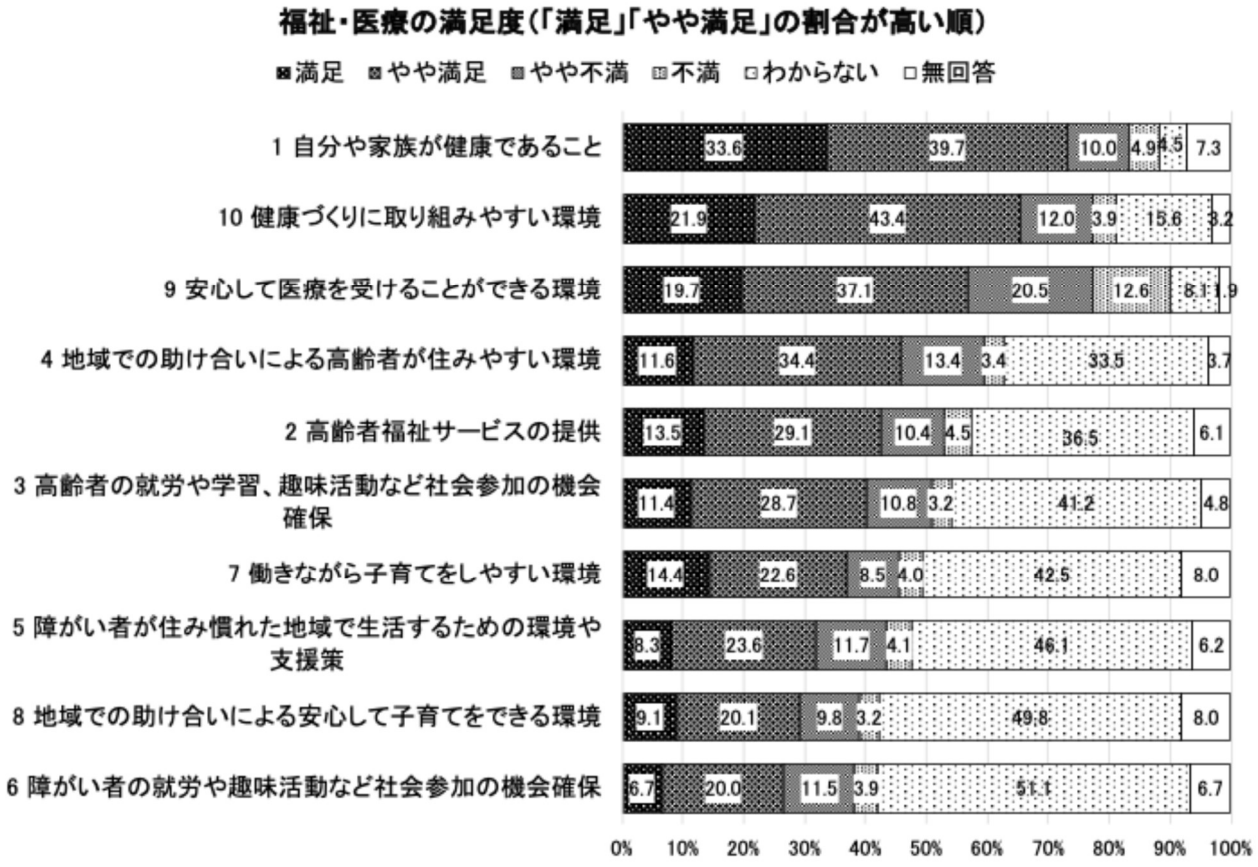
[1] 問 8 では町外出身者の人数は 809 名なので、問 8 の無回答者が問 9 に回答している可能性があります。よってデータクリーニング後、数字が変動する可能性があります。

速報値

【問 10】下川町の各分野の施策において、あなたが「現在どのくらい満足しているのか」についておたずねします。

（１）福祉・医療について

設問	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
1 自分や家族が健康であること	33.6	39.7	10.0	4.9	4.5	7.3	73.2	14.9
2 高齢者福祉サービスの提供	13.5	29.1	10.4	4.5	36.5	6.1	42.5	14.9
3 高齢者の就労や学習、趣味活動など社会参加の機会確保	11.4	28.7	10.8	3.2	41.2	4.8	40.1	14.0
4 地域での助け合いによる高齢者が住みやすい環境	11.6	34.4	13.4	3.4	33.5	3.7	46.0	16.8
5 障がい者が住み慣れた地域で生活するための環境や支援策	8.3	23.6	11.7	4.1	46.1	6.2	31.9	15.8
6 障がい者の就労や趣味活動など社会参加の機会確保	6.7	20.0	11.5	3.9	51.1	6.7	26.7	15.4
7 働きながら子育てをしやすい環境	14.4	22.6	8.5	4.0	42.5	8.0	36.9	12.5
8 地域での助け合いによる安心して子育てをできる環境	9.1	20.1	9.8	3.2	49.8	8.0	29.2	13.0
9 安心して医療を受けることができる環境	19.7	37.1	20.5	12.6	8.1	1.9	56.8	33.2
10 健康づくりに取り組みやすい環境	21.9	43.4	12.0	3.9	15.6	3.2	65.4	15.8



福祉・医療分野における各施策への満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた満足層の割合が最も高いのは「自分や家族が健康であること」（73.2%）であり、次いで「健康づくりに取り組みやすい環境」（65.4%）、「安心して医療を受けることができる環境」（56.8%）となっている。

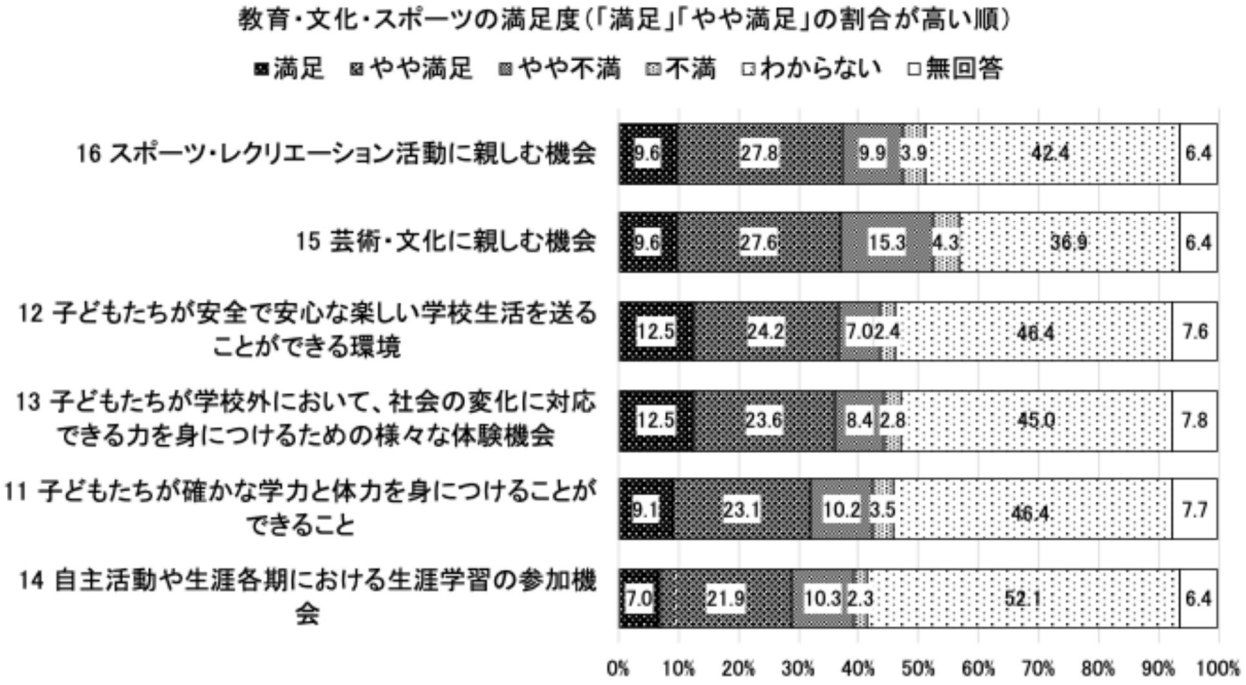
一方、「不満」と「やや不満」を合わせた不満層の割合をみると、「安心して医療を受けることができる環境」が 33.2%と最も高く、満足層では 3 位にランクインしながらも不満層では 1 位となっており、町民の間で評価が二極化していることがわかる。

また、「わからない」の割合が高い項目としては、「障がい者の就労や趣味活動など社会参加のための確保」（51.1%）、「地域での助け合いによる安心して子育てをできる環境」（49.8%）、「障がい者が住み慣れた地域で生活するための環境や支援策」（46.1%）などが目立つ。

速報値

（２）教育・文化・スポーツについて

設問	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	満足+やや満足	不満＋やや不満
11 子どもたちが確かな学力と体力を身につけることができること	9.1	23.1	10.2	3.5	46.4	7.7	32.2	13.7
12 子どもたちが安全で安心な楽しい学校生活を送ることができる環境	12.5	24.2	7.0	2.4	46.4	7.6	36.7	9.4
13 子どもたちが学校外において、社会の変化に対応できる力を身につけるための様々な体験機会	12.5	23.6	8.4	2.8	45.0	7.8	36.0	11.2
14 自主活動や生涯各期における生涯学習の参加機会	7.0	21.9	10.3	2.3	52.1	6.4	28.9	12.6
15 芸術・文化に親しむ機会	9.6	27.6	15.3	4.3	36.9	6.4	37.2	19.5
16 スポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会	9.6	27.8	9.9	3.9	42.4	6.4	37.4	13.8



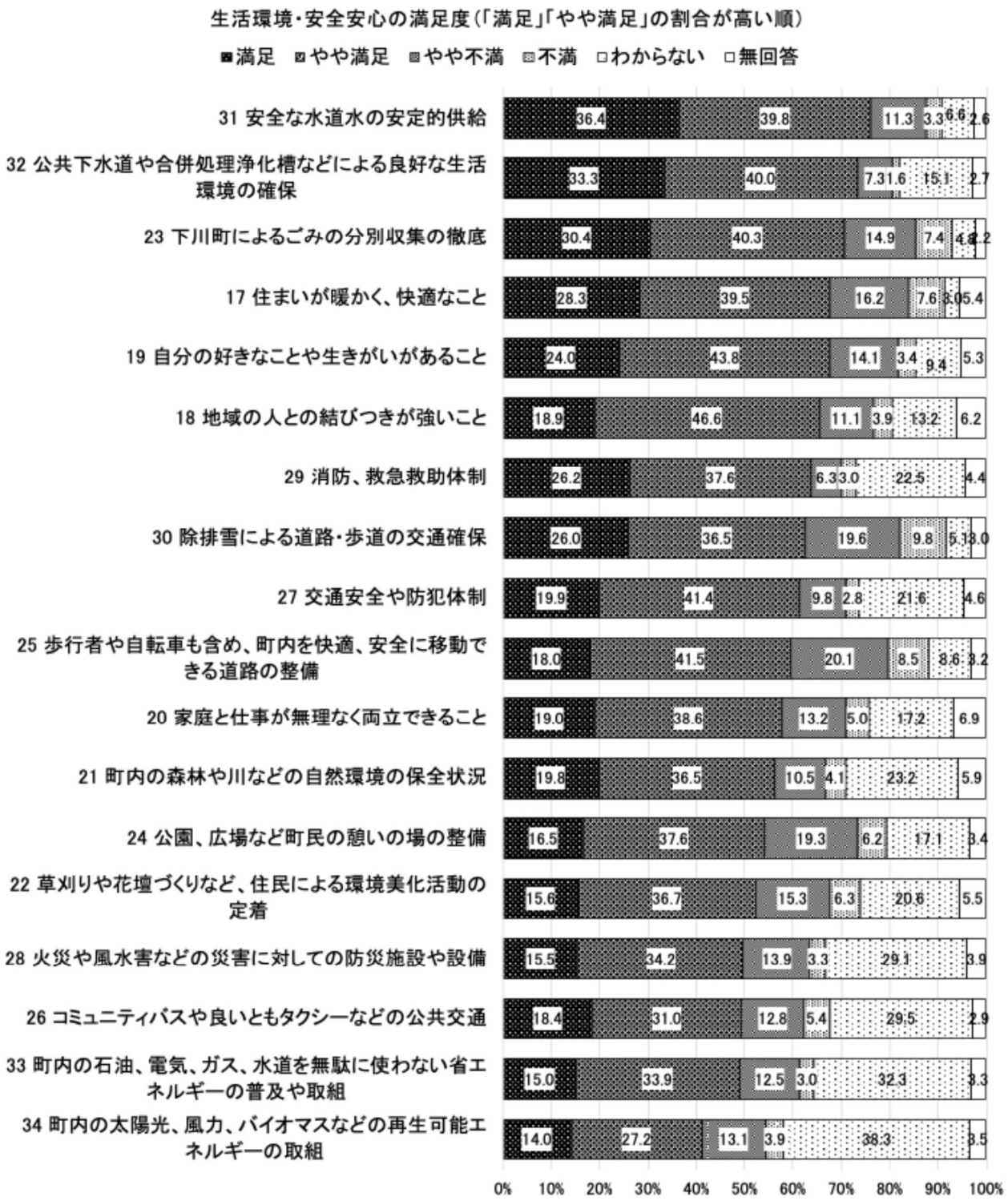
教育・文化・スポーツ分野における各施策への満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた満足層の割合が最も高いのは「スポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会」（37.4%）であり、次いで「芸術・文化に親しむ機会」（37.2%）、「子どもたちが安全で安心な楽しい学校生活を送ることができる環境」（36.7%）となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた不満層の割合が高い項目としては、「芸術・文化に親しむ機会」（19.5%）が挙げられる。全体としては、相対的に項目間の差は小さく、「わからない」の割合が大きい。

速報値

（３）生活環境･安全安心について

設問	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	満足+やや満足	不満＋やや不満
17 住まいが暖かく、快適なこと	28.3	39.5	16.2	7.6	3.0	5.4	67.8	23.7
18 地域の人との結びつきが強いこと	18.9	46.6	11.1	3.9	13.2	6.2	65.5	15.0
19 自分の好きなことや生きがいがあること	24.0	43.8	14.1	3.4	9.4	5.3	67.8	17.6
20 家庭と仕事が無理なく両立できること	19.0	38.6	13.2	5.0	17.2	6.9	57.6	18.2
21 町内の森林や川などの自然環境の保全状況	19.8	36.5	10.5	4.1	23.2	5.9	56.2	14.6
22 草刈りや花壇づくりなど、住民による環境美化活動の定着	15.6	36.7	15.3	6.3	20.6	5.5	52.3	21.6
23 下川町によるごみの分別収集の徹底	30.4	40.3	14.9	7.4	4.8	2.2	70.7	22.2
24 公園、広場など町民の憩いの場の整備	16.5	37.6	19.3	6.2	17.1	3.4	54.1	25.5
25 歩行者や自転車も含め、町内を快適、安全に移動できる道路の整備	18.0	41.5	20.1	8.5	8.6	3.2	59.5	28.7
26 コミュニティバスや良いともタクシーなどの公共交通	18.4	31.0	12.8	5.4	29.5	2.9	49.4	18.2
27 交通安全や防犯体制	19.9	41.4	9.8	2.8	21.6	4.6	61.2	12.6
28 火災や風水害などの災害に対しての防災施設や設備	15.5	34.2	13.9	3.3	29.1	3.9	49.8	17.2
29 消防、救急救助体制	26.2	37.6	6.3	3.0	22.5	4.4	63.8	9.3
30 除排雪による道路・歩道の交通確保	26.0	36.5	19.6	9.8	5.1	3.0	62.5	29.4
31 安全な水道水の安定的供給	36.4	39.8	11.3	3.3	6.6	2.6	76.2	14.6
32 公共下水道や合併処理浄化槽などによる良好な生活環境の確保	33.3	40.0	7.3	1.6	15.1	2.7	73.3	8.9
33 町内の石油、電気、ガス、水道を無駄に使わない省エネルギーの普及や取組	15.0	33.9	12.5	3.0	32.3	3.3	48.9	15.5
34 町内の太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの取組	14.0	27.2	13.1	3.9	38.3	3.5	41.2	17.0



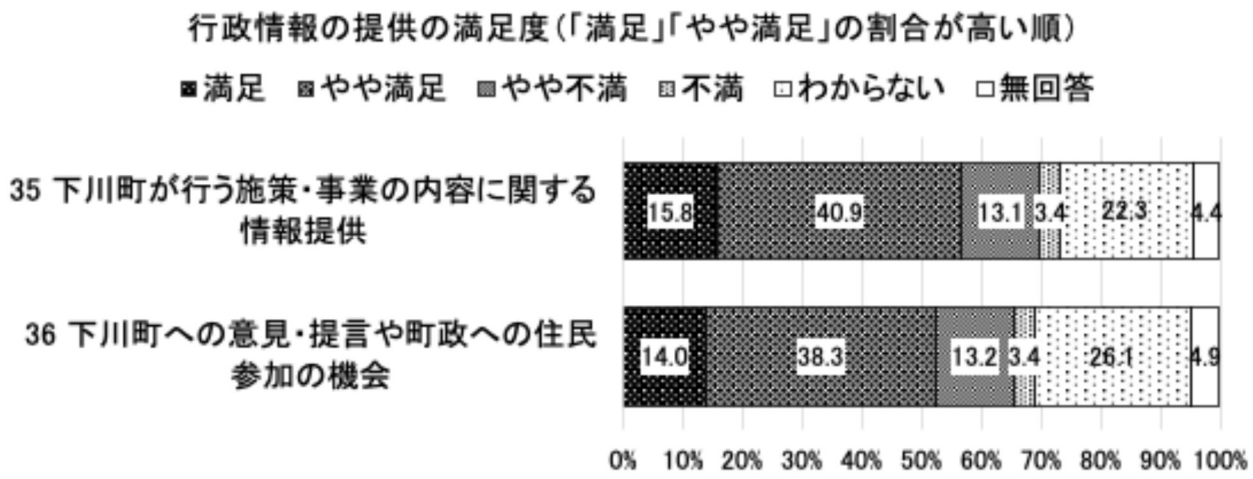
生活環境・安全安心分野における各施策への満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた満足層の割合が最も高いのは「安全な水道水の安定的供給」（76.2%）であり、次いで「公共下水道や合併処理浄化槽などによる良好な生活環境の確保」（73.3%）、「下川町によるごみの分別収集の徹底」（70.7%）となっており、生活インフラに関する施策への満足度が総じて高い傾向にある。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた不満層の割合が高い項目としては、「除排雪による道路・歩道の交通確保」（29.4%）、「歩行者や自転車も含め、町内を快適、安全に移動できる道路の整備」（28.7%）、「公園、広場など町民の憩いの場の整備」（25.5%）が挙げられる。

また、「わからない」の割合が高い項目としては、「町内の太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの取組」（38.3%）、「町内の石油、電気、ガス、水道を無駄に使わない省エネルギーの普及や取組」（32.3%）があげられる。

（４）行政情報の提供について

設問	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
35 下川町が行う施策・事業の内容に関する情報提供	15.8	40.9	13.1	3.4	22.3	4.4	56.7	16.6
36 下川町への意見・提言や町政への住民参加の機会	14.0	38.3	13.2	3.4	26.1	4.9	52.3	16.7



行政情報の提供分野における各施策への満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた満足層の割合は、「下川町が行う施策・事業の内容に関する情報提供」が 56.7%、「下川町への意見・提言や町政への住民参加の機会」が 52.3%となっており、いずれの項目も過半数が満足と回答している。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた不満層の割合は、「下川町が行う施策・事業の内容に関する情報提供」が 16.7%、「下川町への意見・提言や町政への住民参加の機会」が 16.6%と、両項目でほぼ同程度となっている。

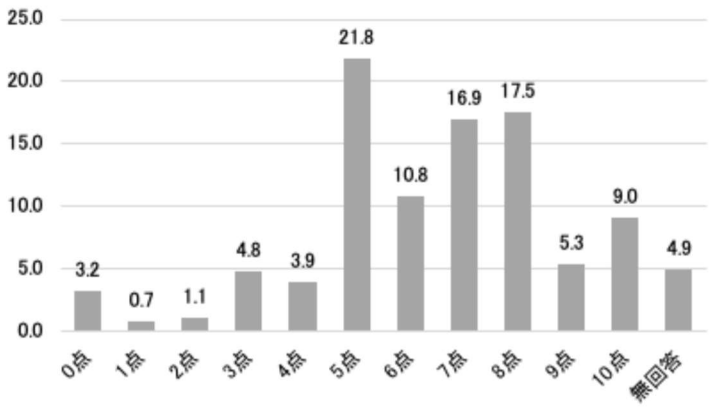
また、「わからない」の割合は「下川町への意見・提言や町政への住民参加の機会」が 26.1%、「下川町が行う施策・事業の内容に関する情報提供」が 22.3%となっており、行政情報や住民参加の機会について認知・関心が十分に広がっていない層が一定数存在することが示唆される。

（５）全体を通して

下川町のまちづくりに対する満足度を点数で表すと何点ですか

設問	平均値
下川町のまちづくりに対する 満足度を点数で表すと何点ですか（満足している 10 点、満足していない 0 点）	6.35

	度数	有効パーセント
0点	39	3.2
1点	9	0.7
2点	13	1.1
3点	58	4.8
4点	48	3.9
5点	266	21.8
6点	131	10.8
7点	206	16.9
8点	213	17.5
9点	65	5.3
10点	110	9.0
無回答	60	4.9
合計	1218	100.0



まちづくりに対する総合満足度を 10 点満点で尋ねた結果をみると、「5 点」が 266 人（21.8%）と最も多く、次いで「8 点」が 213 人（17.5%）、「7 点」が 206 人（16.9%）となっており、4 点から 7 点の中間層が全体の約 53%を占めている。

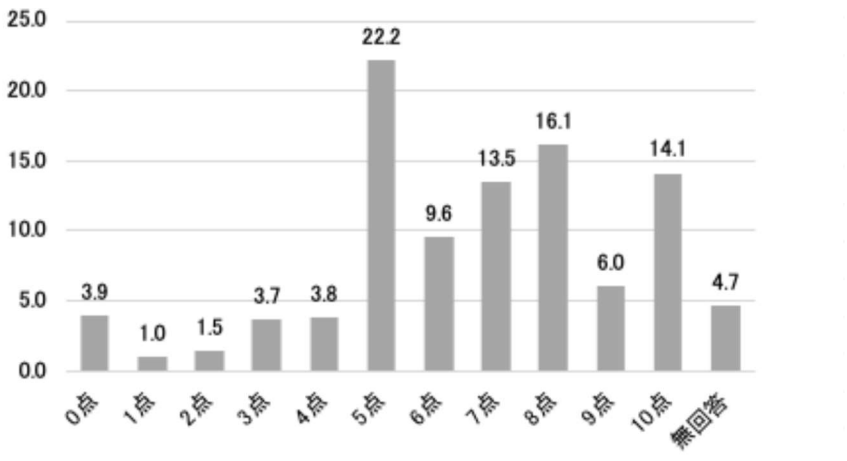
高評価層（8 点以上）の合計は 388 人（31.9%）、低評価層（3 点以下）の合計は 119 人（9.8%）となっており、高評価層が低評価層を上回る結果となっている。

速報値

下川町のまちづくりに対する関心度を点数で表すと何点ですか

設問	平均値
下川町のまちづくりに対する 関心度を点数で表すと何点ですか（関心がある 10 点、関心がない 0 点）	6.47

	度数	有効パーセント
0点	48	3.9
1点	12	1.0
2点	18	1.5
3点	45	3.7
4点	46	3.8
5点	270	22.2
6点	117	9.6
7点	164	13.5
8点	196	16.1
9点	73	6.0
10点	172	14.1
無回答	57	4.7
合計	1218	100.0



まちづくりに対する関心度を 10 点満点で尋ねた結果をみると、「5 点」が 270 人（22.2%）と最も多く、次いで「10 点」が 172 人（14.1%）、「8 点」が 196 人（16.1%）となっており、5 点以上の回答が全体の大多数を占めている。

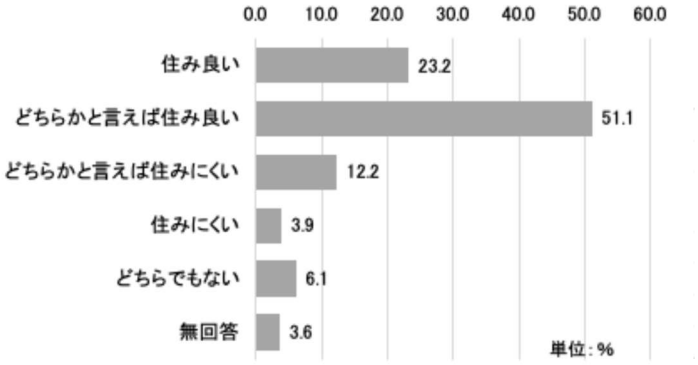
高関心層（8 点以上）の合計は 441 人（36.2%）、低関心層（3 点以下）の合計は 123 人（10.1%）となっており、前問の満足度と同様に高得点層の割合が高い。

③ 定住・生活環境について

【問 11】あなたは、現在の下川町は住み良いところだと思いますか。

Q11 現在の下川町は住み良いところだと思いますか

	度数	有効パーセント
住み良い	282	23.2
どちらかと言えば住み良い	622	51.1
どちらかと言えば住みにくい	149	12.2
住みにくい	47	3.9
どちらでもない	74	6.1
無回答	44	3.6
合計	1218	100.0



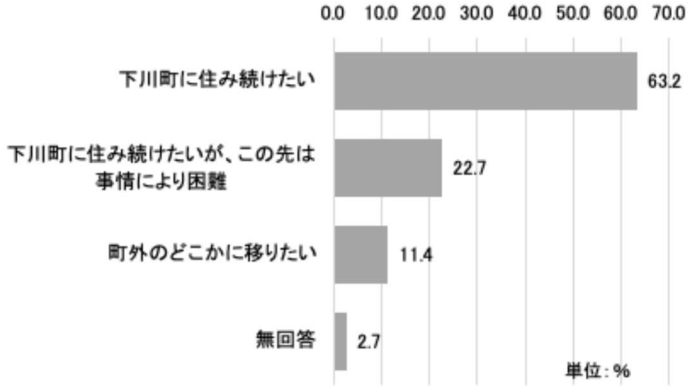
下川町が「住み良いところだと思いますか」と尋ねた結果をみると、「住み良い」が 23.2%、「どちらかと言えば住み良い」が 51.1%となっており、肯定的な評価（住み良い計）の合計は 74.3%と、約 4 分の 3 の回答者が住み良いと感じていることが確認できる。

一方、「どちらかと言えば住みにくい」が 12.2%、「住みにくい」が 3.9%となっており、否定的な評価（住みにくい）の合計は 16.1%にとどまっている。「どちらでもない」は 6.1%、「無回答」は 3.6%であった。

【問 12】あなたは、これからも下川町に住み続けたいと思いますか。

Q12 これからも下川町に住み続けたいと思いますか

	度数	有効パーセント
下川町に住み続けたい	770	63.2
下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難	276	22.7
町外のどこかに移りたい	139	11.4
無回答	33	2.7
合計	1218	100.0



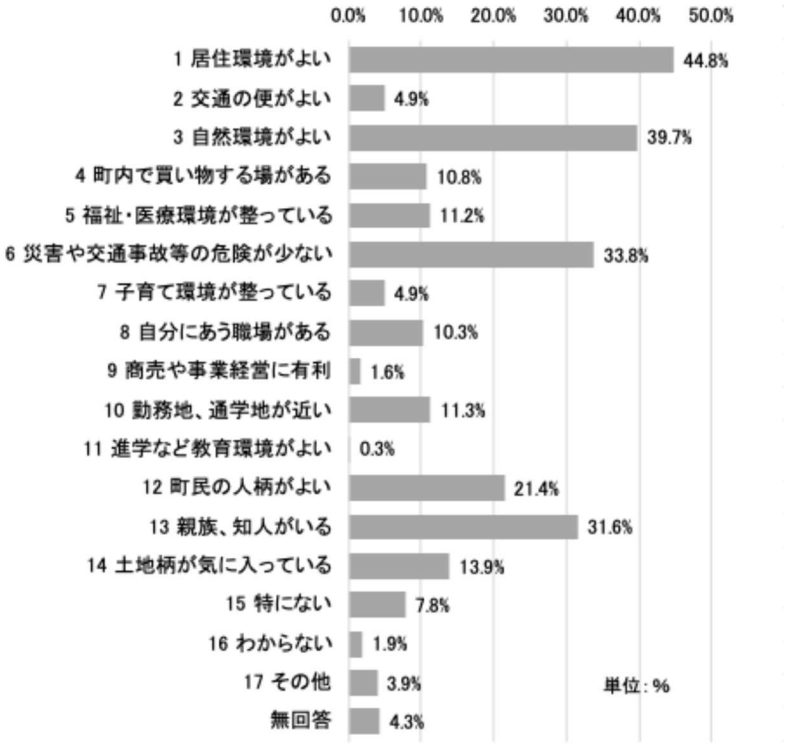
今後の居住意向について尋ねた結果をみると、「下川町に住み続けたい」が 63.2%と最も多く、「下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難」が 22.7%となっており、定住意向を持つ回答者（定住意向計）の合計は 85.9%に達している。一方、「町外のどこかに移りたい」は 11.4%、「無回答」は 2.7%であった。

定住意向を持ちながらも「この先は事情により困難」と回答した層が 22.7%存在することは注目される点であり、住み続けることを困難にする要因の把握と対応が今後の課題として示唆される。

前問で住み良いと評価した割合（74.3%）と比較すると、定住意向（85.9%）がそれを上回っており、居住環境への評価以上に定住意欲が高いことが伺える。

【問 13】問 12 で、1 に○印をつけられた人におたずねします。
下川町に住み続けたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。

	回答数	%
1 居住環境がよい	345	44.8%
2 交通の便がよい	38	4.9%
3 自然環境がよい	306	39.7%
4 町内で買い物する場がある	83	10.8%
5 福祉・医療環境が整っている	86	11.2%
6 災害や交通事故等の危険が少ない	260	33.8%
7 子育て環境が整っている	38	4.9%
8 自分にあう職場がある	79	10.3%
9 商売や事業経営に有利	12	1.6%
10 勤務地、通学地が近い	87	11.3%
11 進学など教育環境がよい	2	0.3%
12 町民の人柄がよい	165	21.4%
13 親族、知人がいる	243	31.6%
14 土地柄が気に入っている	107	13.9%
15 特にない	60	7.8%
16 わからない	15	1.9%
17 その他	30	3.9%
無回答	33	4.3%
合計	770	100.0%



前問で「下川町に住み続けたい」と回答した人を対象[2]に、住み続けたい理由について 3 つまでの複数回答で尋ねた結果をみると、「居住環境がよい」が 345 人（44.8%）と最も多く、次いで「自然環境がよい」が 306 人（39.7%）、「災害や交通事故等の危険が少ない」が 260 人（33.8%）であった。

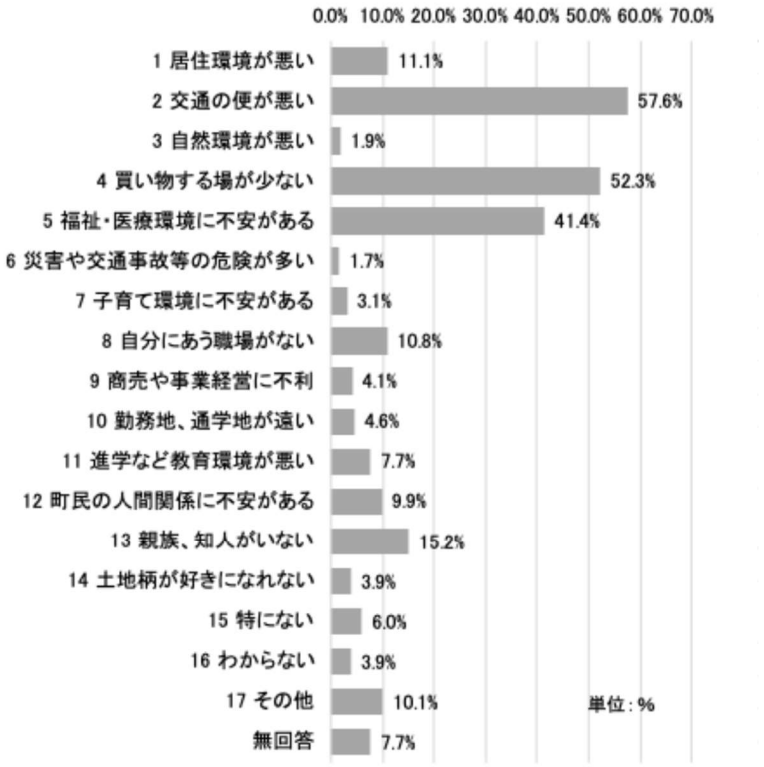
以下、「親族、知人がいる」243 人（31.6%）、「町民の人柄がよい」が 165 人（21.4%）、「土地柄が気に入っている」が 107 人（13.8%）、「勤務地、通学地が近い」が 87 人（11.3%）、「福祉・医療環境が整っている」が 86 人（11.2%）と続いている。

一方、「進学など教育環境がよい」は 2 人（0.3%）、「務め先、事業経営に有利」は 12 人（1.6%）にとどまっている。

[2] 問 12 について、無回答の 33 人のうち 3 名が本設問に回答している。本速報値報告書では、暫定的に「下川町に住み続けたい」と回答した 770 人を母数として割合を算出した。確定版では修正予定。

【問 14】問 12 で、2、3に○印をつけられた人におたずねします。
町外のどこかに移りたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。

	回答数	%
1 居住環境が悪い	46	11.1%
2 交通の便が悪い	239	57.6%
3 自然環境が悪い	8	1.9%
4 買い物する場が少ない	217	52.3%
5 福祉・医療環境に不安がある	172	41.4%
6 災害や交通事故等の危険が多い	7	1.7%
7 子育て環境に不安がある	13	3.1%
8 自分にあう職場がない	45	10.8%
9 商売や事業経営に不利	17	4.1%
10 勤務地、通学地が遠い	19	4.6%
11 進学など教育環境が悪い	32	7.7%
12 町民の人間関係に不安がある	41	9.9%
13 親族、知人がいない	63	15.2%
14 土地柄が好きになれない	16	3.9%
15 特にない	25	6.0%
16 わからない	16	3.9%
17 その他	42	10.1%
無回答	32	7.7%
合計	415	100.0%



町外に移りたい、またはこの先定住継続が困難と回答した人を対象に[3]、その主な理由を 3 つまでの複数回答で尋ねた結果をみると、「交通の便が悪い」が 239 人（57.6%）と最も多く、次いで「買い物する場所が少ない」が 217 人（52.3%）、「福祉・医療環境に不安がある」が 172 人（41.4%）となっており、生活利便性や医療・福祉環境への不満が転出・定住困難の主要因となっていることが確認できる。

以下、「親戚、知人がいない」が 63 人（15.2%）、「居住環境が悪い」が 46 人（11.1%）、「自分にあう職場がない」が 45 人（10.8%）、「町民の人間関係に不安がある」が 41 人（9.9%）と続いており、就労環境や人間関係も転出意向に影響する要因として挙げられている。

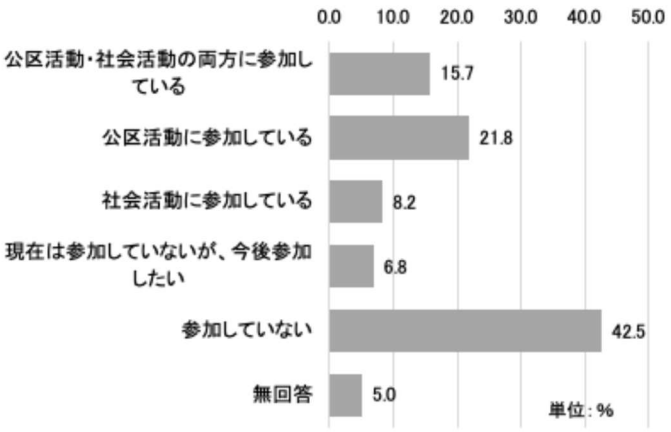
[3] 問 12 について無回答の 33 人のうち　4 名が本設問に回答している。ただし、本速報値報告書では、暫定的に「町外に移りたい」または「この先定住継続が困難」と回答した 415 人を母数として割合を算出している。確定版では修正予定。

④ 公区活動・社会活動への参加について

【問 15】あなたは、お住まいの地域における公区活動や社会活動に参加していますか。

Q15 公区活動や社会活動に参加していますか

	度数	有効パーセント
公区活動・社会活動の両方に参	191	15.7
公区活動に参加している	265	21.8
社会活動に参加している	100	8.2
現在は参加していないが、今後	83	6.8
参加していない	518	42.5
無回答	61	5.0
合計	1218	100.0

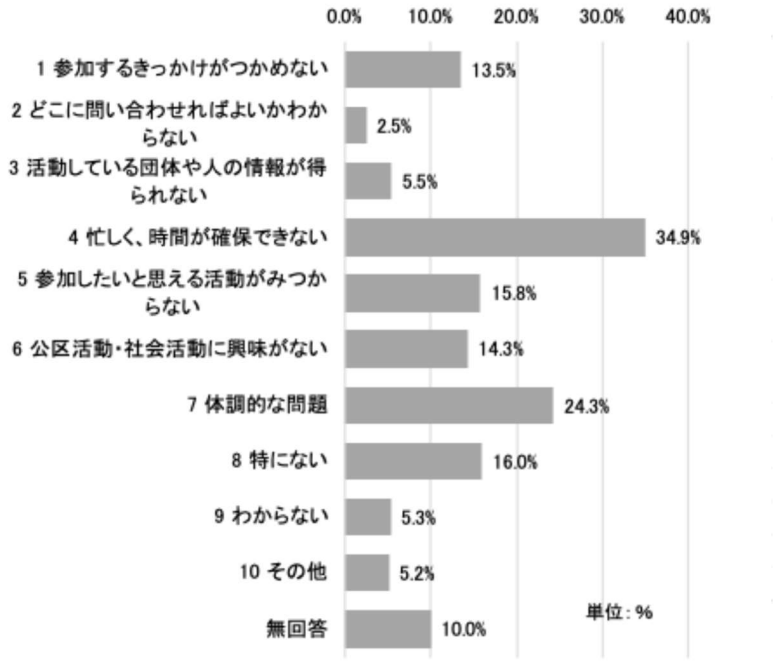


公区活動・社会活動への参加状況について尋ねた結果をみると、「参加していない」が 518 人（42.5%）と最も多く、次いで「公区活動に参加している」が 265 人（21.8%）、「公区活動・社会活動の両方に参加している」が 191 人（15.7%）、「社会活動に参加している」が 100 人（8.2%）となっている。また、「現在は参加していないが、今後参加したい」が 83 人（6.8%）、「無回答」が 61 人（5.0%）であった。

何らかの活動に参加している層（公区活動・社会活動の両方、公区活動のみ、社会活動のみの合計）は 556 人（45.6%）であった。

【問 16】問１５で、４・５に○印を付けられた人におたずねします。公区活動や社会活動に参加しない（してこなかった）主な理由を次の中から２つまで選び、番号に○印を付けてください。

	回答数	%
1 参加するきっかけがつかめない	81	13.5%
2 どこに問い合わせればよいかわからない	15	2.5%
3 活動している団体や人の情報が得られない	33	5.5%
4 忙しく、時間が確保できない	210	34.9%
5 参加したいと思える活動がみつからない	95	15.8%
6 公区活動・社会活動に興味がない	86	14.3%
7 体調的な問題	146	24.3%
8 特にない	96	16.0%
9 わからない	32	5.3%
10 その他	31	5.2%
無回答	60	10.0%
合計	601	100.0%



前問で「現在は参加していないが、今後参加したい」「参加していない」と回答した人を対象に[4]、公区活動・社会活動に参加しない理由について 2 つまでの複数回答で尋ねた結果をみると、「忙しく、時間が確保できない」が 210 人（34.9%）と最も多く、次いで「体調的な問題」が 146 人（24.3%）、「特にない」が 96 人（16.0%）、「参加したいと思える活動がみつからない」が 95 人（15.8%）となっている。

以下、「公区活動・社会活動に興味がない」が 86 人（14.3%）、「参加するきっかけがつかめない」が 81 人（13.5%）と続いている。

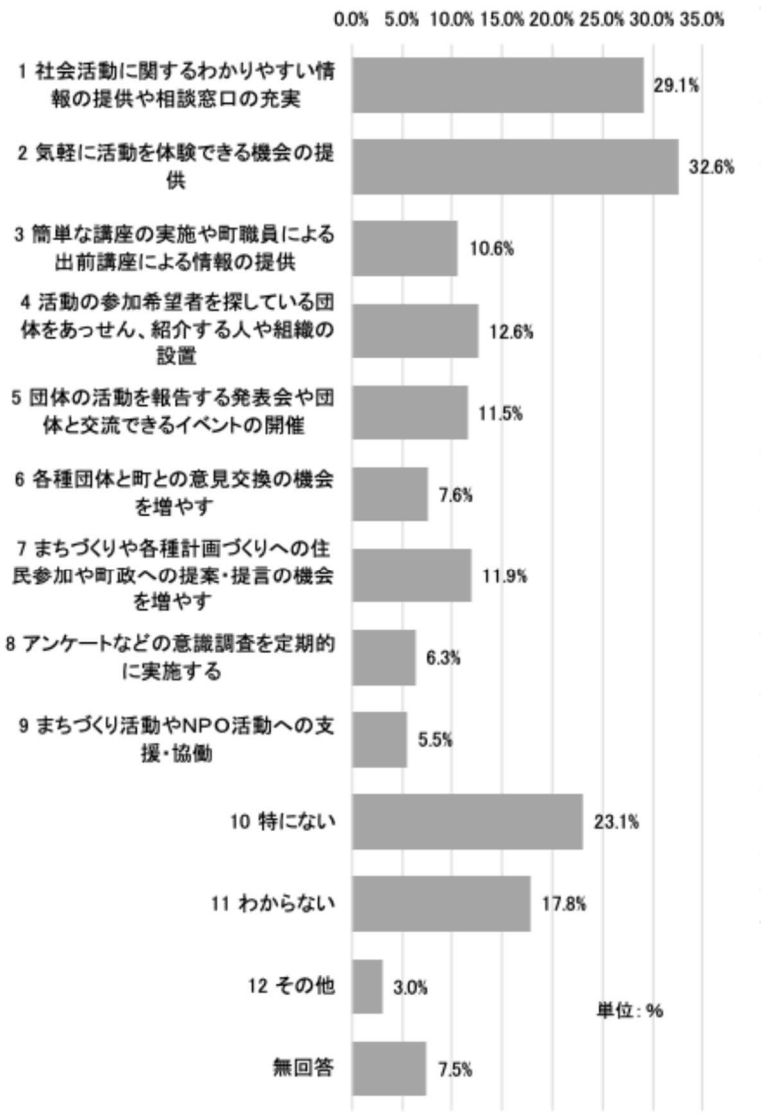
参加しない理由としては、時間的制約と身体的な問題が上位を占めている一方、「参加したいと思える活動がみつからない」（15.8%）や「参加するきっかけがつかめない」（13.5%）といった潜在的な参加意欲を持ちながらも参加に至っていない層が一定数存在している。

[4] 問 15 について無回答の 61 人のうち４名が本設問に回答していた。ただし、本速報値報告書では、暫定的に「現在は参加していないが、今後参加したい」「参加していない」と回答した 301 人を母数として割合を算出している。確定版では修正予定。

速報値

【問 17】社会活動や住民参加のまちづくりを進めるうえで、必要だと思うことを次の中から３つまで選び、番号に○印を付けてください。

	回答数	%
1 社会活動に関するわかりやすい情報の提供や相談窓口の充実	354	29.1%
2 気軽に活動を体験できる機会の提供	397	32.6%
3 簡単な講座の実施や町職員による出前講座による情報の提供	129	10.6%
4 活動の参加希望者を探している団体をあっせん、紹介する人や組織の設置	153	12.6%
5 団体の活動を報告する発表会や団体と交流できるイベントの開催	140	11.5%
6 各種団体と町との意見交換の機会を増やす	92	7.6%
7 まちづくりや各種計画づくりへの住民参加や町政への提案・提言の機会を増やす	145	11.9%
8 アンケートなどの意識調査を定期的に実施する	77	6.3%
9 まちづくり活動やＮＰＯ活動への支援・協働	67	5.5%
10 特にない	281	23.1%
11 わからない	217	17.8%
12 その他	37	3.0%
無回答	91	7.5%
合計	1218	100.0%

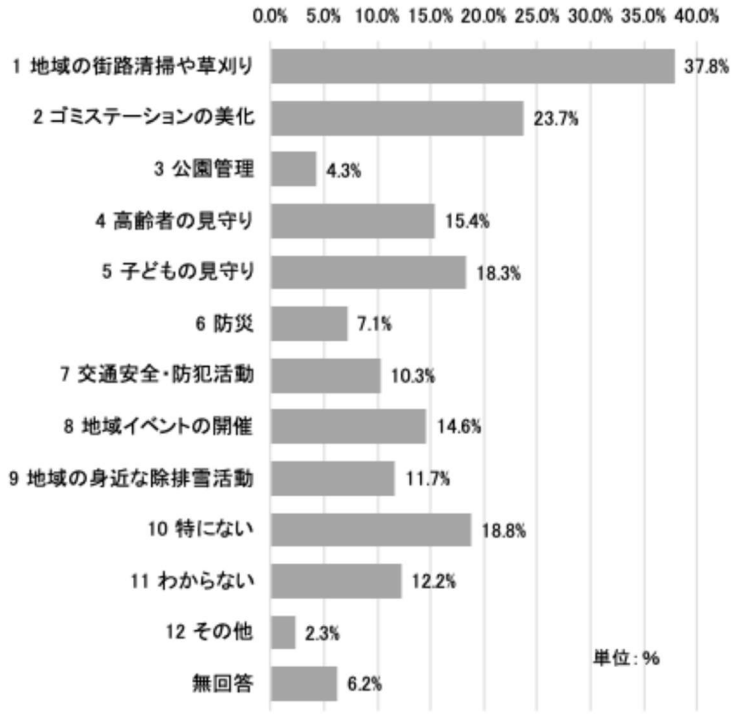


社会活動や住民参加のまちづくりを進めるうえで必要なことについて 3 つまでの複数回答で尋ねた結果をみると、「気軽に活動を体験できる機会の提供」が 397 人（32.6%）と最も多く、次いで「社会活動に関するわかりやすい情報の提供や相談窓口の充実」が 354 人（29.1%）、「特にない」が 281 人（23.1%）となっている。

以下、「活動の参加希望者を探している団体をあっせん、紹介する人や組織の設置」が 153 人（12.6%）、「まちづくりや各種計画づくりへの住民参加や町政への提案・提言の機会を増やす」が 145 人（11.9%）、「団体の活動を報告する発表会や団体と交流できるイベントの開催」が 140 人（11.5%）と続いている。

【問 18】あなたが公区活動や社会活動の中で協力して取り組めるものは、どのような取り組みですか。次の中から選び、番号に○印を付けてください。（いく

	回答数	%
1 地域の街路清掃や草刈り	461	37.8%
2 ゴミステーションの美化	289	23.7%
3 公園管理	52	4.3%
4 高齢者の見守り	187	15.4%
5 子どもの見守り	223	18.3%
6 防災	87	7.1%
7 交通安全・防犯活動	125	10.3%
8 地域イベントの開催	178	14.6%
9 地域の身近な除排雪活動	142	11.7%
10 特にない	229	18.8%
11 わからない	149	12.2%
12 その他	28	2.3%
無回答	76	6.2%
合計	1218	100.0%



全員を対象に、公区活動や社会活動の中で協力して取り組めるものについて複数回答で尋ねた結果をみると、「地域の街路清掃や草刈り」が 461 人（37.8%）と最も多く、次いで「ゴミステーションの美化」が 289 人（23.7%）、「子どもの見守り」が 223 人（18.3%）、「高齢者の見守り」が 187 人（15.4%）、となっており、清掃・美化活動と見守り活動への協力意向が比較的高くなっている。

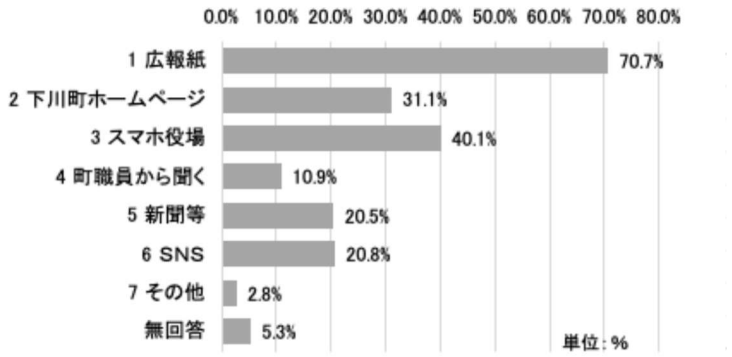
以下、「地域イベントの開催」が 178 人（14.6%）、「地域の身近な除排雪活動」が 142 人（11.7%）、「交通安全・防犯活動」が 125 人（10.3%）と続いている。

一方、「特にない」が 229 人（18.8%）、「わからない」が 149 人（12.2%）となっており、約 3 割の回答者が協力できる活動を見出せていない状況であった。

⑤ 行政情報について

【問 19】町政に関する情報の主な入手方法を次の中から選び、番号に○印を付けてください。（いくつでも可）

	回答数	%
1 広報紙	861	70.7%
2 下川町ホームページ	379	31.1%
3 スマホ役場	489	40.1%
4 町職員から聞く	133	10.9%
5 新聞等	250	20.5%
6 ＳＮＳ	253	20.8%
7 その他	34	2.8%
無回答	65	5.3%
	1218	100.0%



町政に関する情報の主な入手方法について複数回答で尋ねたところ、「広報誌」が 70.7%と最も多く、次いで「スマホ役場」が 40.1%、「町のホームページ」が 31.1%となっており、広報誌を中心としつつ、デジタルツールの活用も広がっていることが確認できる。

以下、「SNS」が 20.8%、「新聞等」が 20.5%、「町議員から聞く」が 10.9%、「その他」が 2.8%、「無回答」が 5.3%となっている。

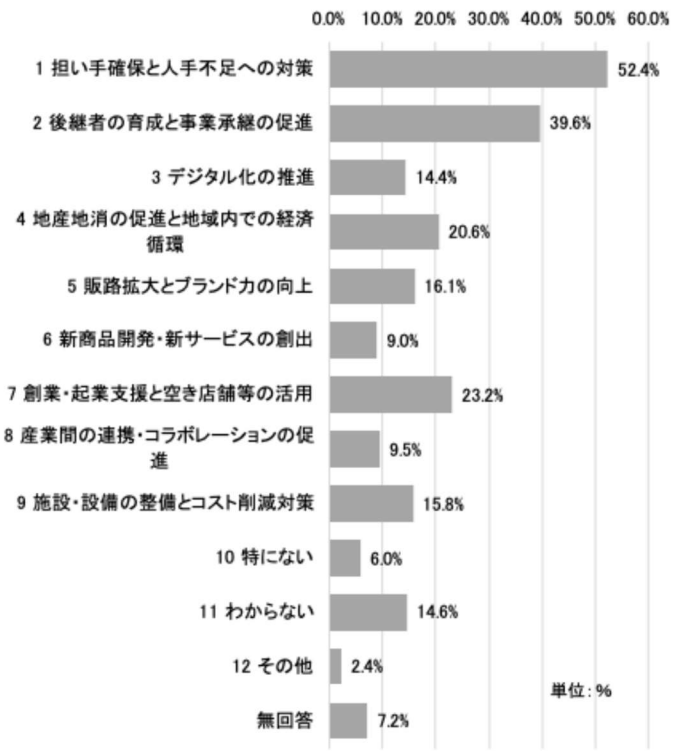
全体としては、広報誌が依然として主要な情報入手手段として定着している一方、スマホ役場やホームページ、SNS といったデジタル媒体の合計が相当数に上っており、デジタルを通じた情報収集が町民に浸透しつつある状況が示されている。

⑥ 各分野において、重点的に取り組むべき施策について

（１）産業振興について

【問 20】あなたは今後どのような施策が重要だと思いますか。次の中から特に重要なものを選び、番号に○印を付けてください（いくつでも可）。

	回答数	%
1 担い手確保と人手不足への対策	638	52.4%
2 後継者の育成と事業承継の促進	482	39.6%
3 デジタル化の推進	176	14.4%
4 地産地消の促進と地域内での経済循環	251	20.6%
5 販路拡大とブランド力の向上	196	16.1%
6 新商品開発・新サービスの創出	110	9.0%
7 創業・起業支援と空き店舗等の活用	282	23.2%
8 産業間の連携・コラボレーションの促進	116	9.5%
9 施設・設備の整備とコスト削減対策	192	15.8%
10 特にない	73	6.0%
11 わからない	178	14.6%
12 その他	29	2.4%
無回答	88	7.2%
	1218	100.0%



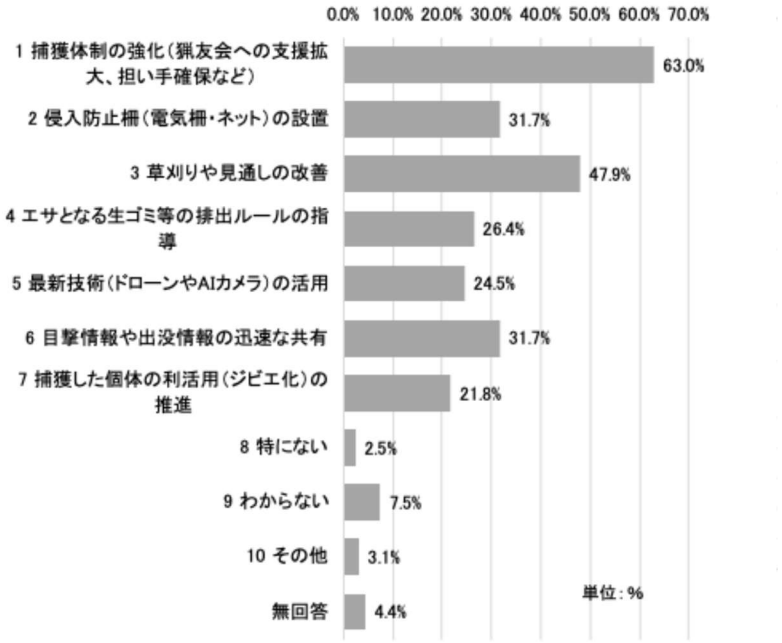
今後重要だと思う産業・経済分野の施策について複数回答で尋ねた結果をみると、「担い手確保と人手不足への対策」が 638 人（52.4%）と最も多く、次いで「後継者の育成と事業承継の促進」が 482 人（39.8%）、「創業・起業支援と空き店舗等の活用」が 282 人(23.2%)となっている。

以下、「地産地消の促進と地域内での経済循環」が 251 人（20.6%）、「販路拡大とブランド力の向上」が 196 人（16.1%）、「施設・設備の整備とコスト削減対策」が 192 人（15.8%）、「デジタル化の推進」が 176 人（14.4%）、「産業間の連携・コラボレーションの促進」が 116 人（9.5%）、「新商品開発・新サービスの創出」が 110 人（9.0%）と続いている。

全体としては、人手不足や後継者問題への対応が最重要課題として広く認識されている。また、創業・起業支援や地産地消の促進など、地域内経済の活性化に資する施策への期待も相対的に高い。

【問 21】有害鳥獣（エゾシカ・ヒグマ等）対策について、あなたは今後どのような施策が重要だと思いますか。次の中から特に重要なものを選び、番号に○印を付けてください。（いくつでも可）

	回答数	%
1 捕獲体制の強化（猟友会への支援拡大、担い手確保など）	767	63.0%
2 侵入防止柵（電気柵・ネット）の設置	386	31.7%
3 草刈りや見通しの改善	584	47.9%
4 エサとなる生ゴミ等の排出ルールの指導	322	26.4%
5 最新技術（ドローンやAIカメラ）の活用	299	24.5%
6 目撃情報や出没情報の迅速な共有	386	31.7%
7 捕獲した個体の利活用（ジビエ化）の推進	265	21.8%
8 特にない	30	2.5%
9 わからない	91	7.5%
10 その他	38	3.1%
無回答	54	4.4%
	1218	100.0%



有害鳥獣（エゾシカ・ヒグマ等）対策として今後重要だと思う施策について複数回答で尋ねた結果をみると、「補填体制の強化（猟友会への支援拡大、担い手確保など）」が 767 人（63.0%）と最も多く、次いで「草刈りや見通しの改善」が 584 人（47.9%）、「侵入防止柵（電気柵・ネット）の設置」が 386 人（31.7%）、「目撃情報や出没情報の迅速な共有」が 386 人（31.7%）となっている。

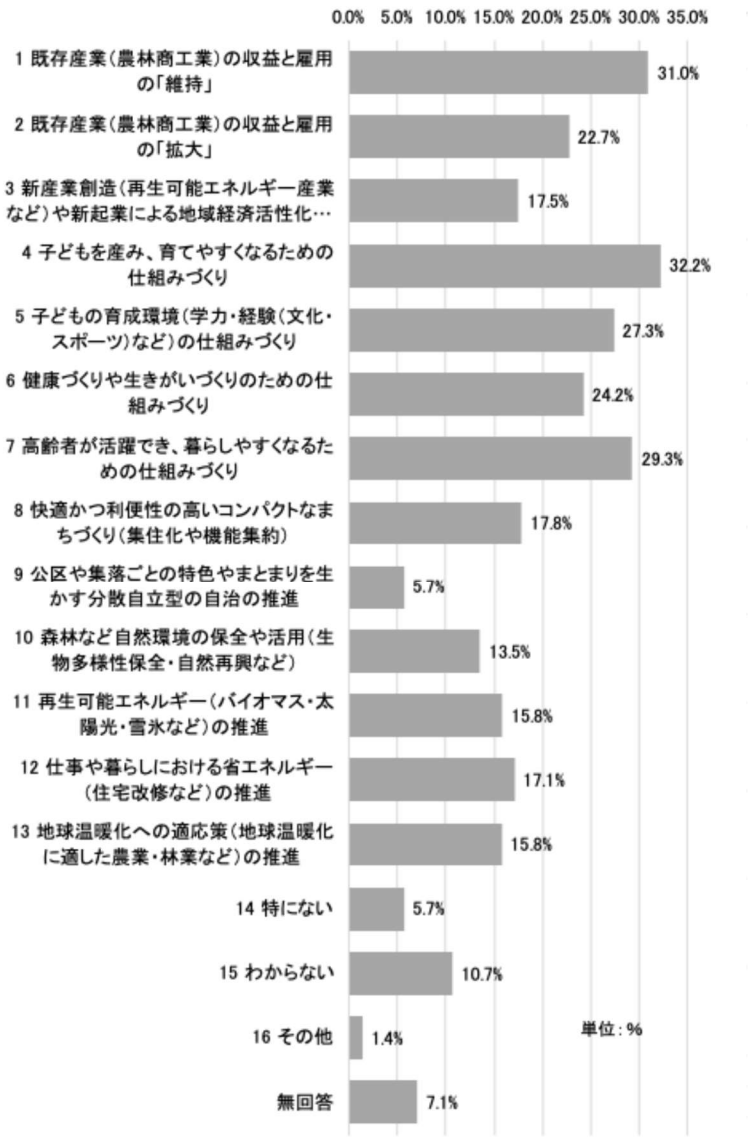
以下、「エサとなる生ゴミ等の排出ルールの啓発」が 322 人（26.4%）、「最新技術（ドローンや AI カメラ）の活用」が 299 人（24.5%）、「捕獲した個体の利活用（ジビエ化）の推進」が 265 人（21.8%）と続いている。

全体としては、担い手確保を含む補填体制の強化が突出して高い割合を示している。また、最新技術の活用やジビエ化の推進など、新たな手法への期待も一定数みられる。

（２）これからのまちづくりについて

【問 22】あなたはこれからのまちづくりにおいて、どのような政策に重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から選び、番号に○印を付けてください。（いくつでも可）

	回答数	%
1 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」	377	31.0%
2 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」	277	22.7%
3 新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出	213	17.5%
4 子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり	392	32.2%
5 子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり	333	27.3%
6 健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり	295	24.2%
7 高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり	357	29.3%
8 快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）	217	17.8%
9 公区や集落ごとの特色やまとまりを生かす分散自立型の自治の推進	69	5.7%
10 森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）	165	13.5%
11 再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進	193	15.8%
12 仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進	208	17.1%
13 地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進	192	15.8%
14 特にない	69	5.7%
15 わからない	130	10.7%
16 その他	17	1.4%
無回答	86	7.1%
	1218	100.0%



今後のまちづくりにおいて重点的に取り組むべき政策について複数回答で尋ねた結果をみると、「子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり」が 392 人（32.2%）と最も多く、次いで「既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」」が 377 人（31.0%）、「高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり」が 357 人（29.3%）、「子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり」が 333 人（27.3%）となっている。

以下、「健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり」が 295 人（24.2%）、「既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」」が 277 人（22.7%）、「快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）」が 217 人（17.8%）、「新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出」が 213 人（17.5%）と続いている。

また、「仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進」が 208 人（17.1%）、「再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進」が 193 人（15.8%）、「地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進」が 192 人（15.8%）、「森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）」が 165 人（13.5%）となっており、環境・エネルギー関連施策への関心も一定程度示されている。

全体としては、子育て・教育・高齢者福祉といった人口減少・少子高齢化に直結する課題への対応が最重要政策として認識される一方、既存産業の維持・拡大も上位に位置している。

自由回答

【問 23】下川町のこれからのまちづくりなどについて、ご意見・ご提案などを自由に記入してください。

- 本分析は、問 23 に回答があった 183 件をカテゴリーに分け、分析したものである。
- 本速報値分析では形態素解析エンジン Sudachi を用い、名詞・動詞・形容詞を分析対象とした。
- 類似する語（表記ゆれ・同義語）は意味的なまとまりに基づき統合し、カテゴリーごとに出現文書数（何人の回答者が言及したか）を集計した。
- 出現回数は目視による概算ではなく、機械的な文字列マッチングによる集計を基本とし、分析者が全件を目視で検証した。
- 検証の過程で、否定表現（例：「まちづくりではない」）や多義語（例：「資源ゴミ」の「資源」）による誤分類を洗い出し、順次修正した。
- 特定の語を含まないが文脈上同テーマと判断される回答は、分析者が目視で追加した（手動コーディング）。
- 1 件の回答が複数のテーマに言及している場合、該当する全てのカテゴリーに重複して計上している。そのため、件数の合計は総回答数（183 件）を上回る。

政策分野	キーワード（表記ゆれ統合後）	出現文書数	主な文脈
⑦ 行政運営・ガバナンス	行政・町政	11	行政の情報公開・発信姿勢への要望、行政運営・財政改革への疑問、住民との対話機会の充実要望、その他行政全般への言及
	個別施策（分野別の政策要望）	11	移住政策の方向性、芸術文化・環境・子育て・企業誘致など分野別の施策要望
	アンケート	11	設問設計・分量への意見、実施方法・形式への提案、アンケート自体の意義・効果への疑問
	情報発信・広報	10	行政からの積極的な情報発信・広報活動の強化を求める意見、町の魅力・移住促進に関する発信力強化の要望
	職員・職場（役場および民間）	6	パワハラ・職員対応・人事異動制度への意見。職場対象が不明確な回答、施設職員の対応方針への意見を含む
	まちづくり（全般・行政運営）	5	まちづくりへの評価と期待、イメージ先行でなく実質を伴う施策・安心な暮らしへの要望、挑戦に寛容な組織文化への期待
	予算配分	5	水道・病院等インフラへの予算配分の妥当性、予算使途の透明性・公平性への疑問
	税金	5	税負担の公平性、使途への疑問
	総合計画（策定・周知）	4	総合計画の内容・記述への意見（策定プロセスや周知不足への指摘を含む）

	小計		**68 件**
③ 産業・経済振興	企業・経営（商工業）	10	企業誘致・支援策への要望、事業承継・経営継承への支援要望、五味温泉問題における企業体制・経営責任への疑問、その他企業関連
	産業（一般・振興）	9	再生可能エネルギー関連産業の育成、新産業創造による雇用創出、地域産業全体の活性化要望
	農業・1 次産業	9	1 次産業の活性化・商品開発、農業従事者への支援・配慮要望、営農に伴う環境面（悪臭・道路汚れ等）への改善要求、農業と他分野を組み合わせた産業振興の提案
	エネルギー	7	再生エネルギー政策の遅れへの指摘、バイオマス・太陽光発電事業への賛否
	店舗・お店	6	既存店舗の存続支援、新規飲食店誘致への要望
	特産品（しいたけ等）	5	しいたけ・トマト等を活かした特産品開発、企業補助への要望
	林業・森	5	林道整備・林業振興、森林資源の活用
	小計		**51 件**
⑤ インフラ・生活基盤	道路・国道	13	道路の破損・凹凸の修繕要望、国道沿いの活性化・賑わい創出、除草・清掃等の維持管理、信号機のタイミング調整や速度取り締まり等の交通安全
	空き家・住宅	9	空き家の有効活用・譲渡制度への要望、公営住宅の家賃・老朽化への不満
	交通・バス	8	ハイヤー・タクシーの運行時間や利用しづらさ、バス路線・福祉バスの整備要望。高齢者・通院の移動手段確保への不安
	水道	7	水道管老朽化・水道料金への不安、上下水道インフラ維持への懸念
	施設（その他・一般）	5	庁舎・公民会館の統廃合や有効活用、遊び場・こども園等の施設整備要望（特定施設名を除く一般的な施設言及）
	公民館・体育館	2	公民館の蔵書充実、施設の有効活用
	スポーツ施設（コート・プール）	2	テニスコート・プールの利用時間短縮や維持管理への不満
	小計		**46 件**
	高齢者	23	通院・移動手段の確保（タクシー・バス送迎）、就労・社会参加の機会創出、医療・福祉サービスの充実、既

① 高齢者福祉・医療			存住民（子育て世代）とのバランスへの意見、住まい・生活基盤への不安、その他
	病院・医療・福祉	18	歯科医院の誘致要望、通院手段の確保（送迎・バス・タクシー）、町立病院の運営・利用促進、高齢者向け福祉サービスの充実、その他医療・福祉政策全般への意見
	小計		**41 件**
⑥ 移住・定住・地域コミュニティ	町民・住民	21	既存住民・定住者への配慮要望、行政の情報発信・職員対応への注文、生活基盤・地域資源の活用提案
	移住・定住	17	移住促進への賛否、定住重視への転換要望、移住者の転出・定着率の低さ
	小計		**38 件**
④ 観光・地域資源	観光・魅力（資源含む）	15	観光資源・特定施設の活用要望、町の魅力発信力への課題認識、教育・子育て環境を軸にした魅力づくり
	五味温泉（会計・運営問題）	7	会計不正・経営責任問題への追及、情報公開と再発防止を求める声
	万里の長城・道の駅（観光資源）	6	特定施設（万里の長城）を活かした観光振興策への期待、道の駅整備による賑わい創出の要望
	温泉	1	高齢者にとっての温泉のありがたみ
	小計		**29 件**
② 子育て・教育	子育て・教育	15	高校・学校教育の質向上、こども園・遊び場等の子育て環境整備、出産・部活動等への支援拡充
	高校	5	高校の存続・魅力化への期待
	小計		**20 件**
⑧ 環境・安全	環境・ゴミ	11	ゴミの不法投棄・ポイ捨て対策、悪臭（畜産関連）への苦情、河川・自然環境の保全、環境保全型の産業・意識啓発
	熊・獣害	5	熊の出没への恐怖、獣害対策強化の要望
	お墓	3	合同墓・共同墓地の整備要望
	小計		**19 件**
⑨ 補助・支援制度（分野横断）	補助・支援	18	既存店舗・新規開業への支援要望、子育て・教育関連の補助拡充、農業・林業・産業振興への補助、高齢者・低所得者向け支援制度、補助制度全般の公平性・効果検証への要望、その他個別の支援要望
	小計		**18 件**

付録　クロス集計

本クロス集計表の見方

- 本クロス集計は、問 11・問 12・問 13・問 14・問 22 について、属性別(年齢／家族構成／出身／移住年数)に集計をおこなったものです。

  【問 11】あなたは、現在の下川町は住み良いところだと思いますか（単一回答）。
  【問 12】あなたは、これからも下川町に住み続けたいと思いますか（単一回答）。
  【問 13】問 12 で、1 に○印をつけられた人におたずねします。下川町に住み続けたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。
  【問 14】問 12 で、2、3 に○印をつけられた人におたずねします。 町外のどこかに移りたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。
  【問 22】あなたはこれからのまちづくりにおいて、どのような政策に重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から選び、番号に○印を付けてください。（いくつでも可）

- 各カテゴリの人数は、見出しに「○○歳(○○名)」の形式で表示しています。
- 本報告書のクロス集計は、各設問の無回答・非該当を除いて集計しています。そのため、単純集計と数字が一致しない場合があります。
- %は小数点以下を四捨五入して表示しています。そのため、内訳の%を合計しても 100%にならない場合があります。
- 四捨五入の影響により、複数カテゴリを合算した%は、合算前の各%を単純に足し合わせた値と一致しない場合があります(合算後の数値で再計算しているため)。
- 表内の色分けは、値のしきい値に応じたヒートマップ表示であり、値の高低を視覚的に示すものです。 色分けの基準は下記の通りです。



- 本報告書の数値は速報値です。今後のデータクリーニング等により数値が変動する可能性があります。

【問 11】あなたは、現在の下川町は住み良いところだと思いますか。

年代別

年齢層	住み良い	どちらかと言えば住み良い	どちらでもない	どちらかと言えば住みにくい	住みにくい	合計	住み良い計	住みにくい計
18～29歳（56名）	35.7%	37.5%	3.6%	16.1%	7.1%	100%	73.2%	23.2%
30～39歳（94名）	26.6%	48.9%	5.3%	12.8%	6.4%	100%	75.5%	19.1%
40～49歳（162名）	17.3%	59.3%	5.6%	14.2%	3.7%	100%	76.5%	17.9%
50～59歳（206名）	18.4%	46.1%	6.8%	21.4%	7.3%	100%	64.6%	28.6%
60～69歳（209名）	23.0%	53.6%	7.7%	12.9%	2.9%	100%	76.6%	15.8%
70歳以上（445名）	27.4%	56.6%	6.3%	7.4%	2.2%	100%	84.0%	9.7%
全体（1172名）	24.0%	53.1%	6.3%	12.6%	4.0%	100%	77.0%	16.6%

家族構成別

家族構成	住み良い	どちらかと言えば住み良い	どちらでもない	どちらかと言えば住みにくい	住みにくい	合計	住み良い計	住みにくい計
ひとり暮らし（276名）	27.5%	52.9%	4.7%	10.9%	4.0%	100%	80.4%	14.9%
夫婦のみ世帯（427名）	21.8%	53.6%	6.6%	14.5%	3.5%	100%	75.4%	18.0%
ひとり親世帯（56名）	23.2%	46.4%	10.7%	12.5%	7.1%	100%	69.6%	19.6%
夫婦と子からなる世帯（277名）	22.4%	55.6%	4.7%	13.7%	3.6%	100%	78.0%	17.3%
三世代（親･子･孫）世帯（48名）	35.4%	54.2%	4.2%	6.3%	0.0%	100%	89.6%	6.3%
その他（72名）	22.2%	41.7%	15.3%	12.5%	8.3%	100%	63.9%	20.8%
全体（1156名）	24.0%	52.9%	6.3%	12.9%	4.0%	100%	76.8%	16.9%

出身地別

出身地	住み良い	どちらかと言えば住み良い	どちらでもない	どちらかと言えば住みにくい	住みにくい	合計	住み良い計	住みにくい計
下川町出身（394名）	22.3%	55.8%	5.1%	12.7%	4.1%	100%	78.2%	16.8%
下川町以外出身（775名）	24.5%	51.7%	7.0%	12.8%	4.0%	100%	76.3%	16.8%
全体（1169名）	23.8%	53.1%	6.3%	12.7%	4.0%	100%	76.9%	16.8%

居住年数別（移住者のみ）

居住年数（移住者）	住み良い	どちらかと言えば住み良い	どちらでもない	どちらかと言えば住みにくい	住みにくい	合計	住み良い計	住みにくい計
１年以内（34名）	47.1%	35.3%	8.8%	5.9%	2.9%	100%	82.4%	8.8%
３年以内（50名）	24.0%	42.0%	6.0%	22.0%	6.0%	100%	66.0%	28.0%
５年以内（47名）	19.1%	59.6%	2.1%	12.8%	6.4%	100%	78.7%	19.1%
１０年以内（78名）	20.5%	47.4%	9.0%	17.9%	5.1%	100%	67.9%	23.1%
２０年以内（100名）	22.0%	48.0%	8.0%	16.0%	6.0%	100%	70.0%	22.0%
３０年以内（93名）	20.4%	51.6%	5.4%	19.4%	3.2%	100%	72.0%	22.6%
それ以上（370名）	25.7%	55.7%	7.0%	8.6%	3.0%	100%	81.4%	11.6%
全体（772名）	24.5%	51.8%	6.9%	12.8%	4.0%	100%	76.3%	16.8%

【問 12】あなたは、これからも下川町に住み続けたいと思いますか。

年代別

年齢層	下川町に住み続けたい	下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難	町外のどこかに移りたい	全体	住み続けたい計
18～29歳(56名)	55.4%	23.2%	21.4%	100%	78.6%
30～39歳(94名)	67.0%	13.8%	19.1%	100%	80.9%
40～49歳(161名)	59.0%	21.1%	19.9%	100%	80.1%
50～59歳(207名)	50.2%	29.0%	20.8%	100%	79.2%
60～69歳(209名)	61.7%	29.2%	9.1%	100%	90.9%
70歳以上(456名)	75.9%	20.8%	3.3%	100%	96.7%
全体(1183名)	64.9%	23.3%	11.7%	100%	88.3%

家族構成別

家族構成	下川町に住み続けたい	下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難	町外のどこかに移りたい	全体	住み続けたい計
ひとり暮らし(275名)	62.5%	26.9%	10.5%	100%	89.5%
夫婦のみ世帯(428名)	64.5%	25.0%	10.5%	100%	89.5%
ひとり親世帯(60名)	63.3%	23.3%	13.3%	100%	86.7%
夫婦と子からなる世帯(281名)	68.7%	17.1%	14.2%	100%	85.8%
三世代（親･子･孫）世帯(48名)	72.9%	16.7%	10.4%	100%	89.6%
その他(73名)	57.5%	27.4%	15.1%	100%	84.9%
全体(1165名)	64.9%	23.3%	11.8%	100%	88.2%

速報値

出身地別

出身地	下川町に住み続けたい	下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難	町外のどこかに移りたい	全体	住み続けたい計
下川町出身(395名)	68.6%	21.8%	9.6%	100%	90.4%
下川町出身以外(785名)	63.1%	24.1%	12.9%	100%	87.1%
全体(1180名)	64.9%	23.3%	11.8%	100%	88.2%

居住年数別（移住者のみ）

居住年数（移住者）	下川町に住み続けたい	下川町に住み続けたいが、この先は事情により困難	町外のどこかに移りたい	全体	住み続けたい計
１年以内(34名)	70.6%	23.5%	5.9%	100%	94.1%
３年以内(50名)	34.0%	50.0%	16.0%	100%	84.0%
５年以内(47名)	53.2%	31.9%	14.9%	100%	85.1%
１０年以内(78名)	53.8%	25.6%	20.5%	100%	79.5%
２０年以内(99名)	60.6%	16.2%	23.2%	100%	76.8%
３０年以内(95名)	57.9%	24.2%	17.9%	100%	82.1%
それ以上(378名)	70.9%	21.7%	7.4%	100%	92.6%
全体(781名)	62.9%	24.2%	12.9%	100%	87.1%

速報値

【問 13】問 12 で、1 に○印をつけられた人におたずねします。

下川町に住み続けたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。

年代別

各セルは、各列（属性区分）内で「はい」と回答した人の割合（%）です（母数＝各列の回答者数）。属性区分ごとの回答傾向の違いを示しています。色はしきい値ごとの塗り分け（ヒートマップ）です。※速報値のため今後変動の可能性があります。

項目	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	全体
	(31名)	(62名)	(94名)	(104名)	(129名)	(346名)	(766名)
1 居住環境がよい	58.1%	29.0%	44.7%	41.3%	42.6%	48.8%	45.0%
2 交通の便がよい	3.2%	1.6%	1.1%	3.8%	1.6%	8.4%	5.0%
3 自然環境がよい	45.2%	45.2%	46.8%	48.1%	38.0%	35.0%	39.9%
4 町内で買い物する場がある	6.5%	4.8%	2.1%	9.6%	8.5%	15.9%	10.8%
5 福祉・医療環境が整っている	0.0%	0.0%	4.3%	2.9%	8.5%	19.7%	11.2%
6 災害や交通事故等の危険が少ない	6.5%	19.4%	30.9%	26.9%	31.0%	43.1%	33.9%
7 子育て環境が整っている	16.1%	17.7%	11.7%	5.8%	1.6%	0.9%	5.0%
8 自分にあう職場がある	22.6%	16.1%	18.1%	19.2%	10.1%	3.5%	10.3%
9 商売や事業経営に有利		4.8%	2.1%	1.0%	3.1%	0.6%	1.6%
10 勤務地、通学地が近い	25.8%	29.0%	27.7%	20.2%	7.0%	1.4%	11.4%
11 進学など教育環境がよい	3.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
12 町民の人柄がよい	45.2%	24.2%	21.3%	15.4%	17.8%	22.3%	21.5%
13 親族、知人がいる	25.8%	40.3%	25.5%	26.9%	30.2%	34.1%	31.6%
14 土地柄が気に入っている	6.5%	19.4%	10.6%	15.4%	20.9%	11.6%	14.0%
15 特にない	0.0%	4.8%	8.5%	6.7%	9.3%	8.4%	7.7%
16 わからない	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	3.9%	2.3%	2.0%
17 その他	0.0%	4.8%	1.1%	5.8%	5.4%	3.8%	3.9%

速報値

家族構成別

項目	ひとり暮らし (173名)	夫婦のみ世帯 (276名)	ひとり親世帯 (38名)	夫婦と子からなる世帯 (191名)	三世代（親･子･孫）世帯 (35名)	その他 (42名)	全体 (755名)
1 居住環境がよい	47.4%	47.1%	44.7%	36.6%	65.7%	40.5%	44.9%
2 交通の便がよい	7.5%	5.4%	2.6%	1.0%	5.7%	9.5%	4.9%
3 自然環境がよい	43.9%	37.0%	42.1%	42.4%	40.0%	28.6%	39.9%
4 町内で買い物する場がある	16.2%	11.2%	5.3%	6.8%	11.4%	9.5%	10.9%
5 福祉･医療環境が整っている	10.4%	16.7%	7.9%	6.3%	2.9%	9.5%	11.1%
6 災害や交通事故等の危険が少ない	35.8%	37.7%	26.3%	28.8%	34.3%	28.6%	33.8%
7 子育て環境が整っている		2.2%	7.9%	12.6%	14.3%	0.0%	5.0%
8 自分にあう職場がある	10.4%	8.7%	5.3%	15.2%	8.6%	7.1%	10.5%
9 商売や事業経営に有利	2.3%	0.7%	0.0%	2.6%	2.9%	0.0%	1.6%
10 勤務地、通学地が近い	11.6%	5.4%	13.2%	19.4%	11.4%	11.9%	11.4%
11 進学など教育環境がよい	0.0%	0.0%	2.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
12 町民の人柄がよい	24.9%	22.8%	23.7%	20.9%	17.1%	9.5%	21.9%
13 親族、知人がいる	24.9%	34.1%	36.8%	30.4%	31.4%	35.7%	31.1%
14 土地柄が気に入っている	17.9%	12.7%	18.4%	13.6%	8.6%	9.5%	14.0%
15 特にない	6.4%	6.9%	5.3%	11.0%	5.7%	9.5%	7.8%
16 わからない	2.3%	0.7%	2.6%	2.6%	0.0%	7.1%	2.0%
17 その他	2.9%	4.0%	2.6%	5.8%	0.0%	2.4%	3.8%

出身地別

項目	下川町出身 (271名)	下川町出身以外 (493名)	全体 (764名)
1 居住環境がよい	41.0%	46.9%	44.8%
2 交通の便がよい	3.3%	5.9%	5.0%
3 自然環境がよい	37.3%	41.4%	39.9%
4 町内で買い物する場がある	7.4%	12.2%	10.5%
5 福祉･医療環境が整っている	11.4%	10.5%	10.9%
6 災害や交通事故等の危険が少ない	35.8%	33.1%	34.0%
7 子育て環境が整っている	3.3%	5.7%	4.8%
8 自分にあう職場がある	8.1%	11.4%	10.2%
9 商売や事業経営に有利	2.2%	1.2%	1.6%
10 勤務地、通学地が近い	11.4%	11.2%	11.3%
11 進学など教育環境がよい	0.4%	0.2%	0.3%
12 町民の人柄がよい	15.9%	24.7%	21.6%
13 親族、知人がいる	41.7%	26.0%	31.5%
14 土地柄が気に入っている	11.1%	15.6%	14.0%
15 特にない	8.9%	7.3%	7.9%
16 わからない	1.1%	2.4%	2.0%
17 その他	4.8%	3.4%	3.9%

居住年数別（移住者のみ）

項目	１年以内 (24名)	３年以内 (17名)	５年以内 (24名)	１０年以内 (43名)	２０年以内 (60名)	３０年以内 (53名)	それ以上 (268名)	全体 (489名)
1 居住環境がよい	66.7%	52.9%	50.0%	39.5%	31.7%	45.3%	49.6%	47.0%
2 交通の便がよい	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	9.7%	5.9%
3 自然環境がよい	66.7%	70.6%	54.2%	46.5%	48.3%	47.2%	32.8%	41.5%
4 町内で買い物する場がある	8.3%	5.9%	0.0%	4.7%	6.7%	13.2%	16.4%	12.3%
5 福祉･医療環境が整っている	0.0%	0.0%	4.2%	4.7%	1.7%	9.4%	15.7%	10.4%
6 災害や交通事故等の危険が少ない	0.0%	11.8%	16.7%	27.9%	31.7%	32.1%	39.9%	32.9%
7 子育て環境が整っている	12.5%	17.6%	20.8%	14.0%	10.0%	3.8%	1.1%	5.7%
8 自分にあう職場がある	25.0%	23.5%	12.5%	23.3%	18.3%	17.0%	4.5%	11.2%
9 商売や事業経営に有利	0.0%	0.0%	4.2%	4.7%	3.3%	0.0%	0.4%	1.2%
10 勤務地、通学地が近い	12.5%	11.8%	20.8%	30.2%	21.7%	20.8%	3.0%	11.2%
11 進学など教育環境がよい	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
12 町民の人柄がよい	33.3%	47.1%	29.2%	37.2%	28.3%	15.1%	21.6%	24.9%
13 親族、知人がいる	12.5%	11.8%	8.3%	18.6%	18.3%	13.2%	34.7%	25.8%
14 土地柄が気に入っている	8.3%	35.3%	20.8%	14.0%	16.7%	9.4%	15.7%	15.5%
15 特にない	0.0%	5.9%	8.3%	4.7%	5.0%	5.7%	9.3%	7.4%
16 わからない	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	1.7%	3.8%	3.0%	2.5%
17 その他	0.0%	5.9%	0.0%	4.7%	6.7%	3.8%	3.0%	3.5%

速報値

【問 14】問 12 で、2、3 に○印をつけられた人におたずねします。
町外のどこかに移りたいと思う主な理由としてあてはまる番号を３つまで選んで○印を付けてください。

年代別

項目	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	全体
	(24名)	(31名)	(66名)	(103名)	(80名)	(111名)	(415名)
1 居住環境が悪い	8.3%	6.5%	13.6%	11.7%	12.5%	9.9%	11.1%
2 交通の便が悪い	66.7%	45.2%	50.0%	58.3%	63.8%	58.6%	57.6%
3 自然環境が悪い	0.0%	0.0%	3.0%	1.0%	1.3%	3.6%	1.9%
4 買い物する場が少ない	58.3%	35.5%	53.0%	60.2%	52.5%	47.7%	52.3%
5 福祉・医療環境に不安がある	12.5%	29.0%	36.4%	48.5%	45.0%	45.0%	41.4%
6 災害や交通事故等の危険が多い	4.2%	3.2%	3.0%	0.0%	1.3%	1.8%	1.7%
7 子育て環境に不安がある	0.0%	12.9%	4.5%	3.9%	1.3%	0.9%	3.1%
8 自分にあう職場がない	20.8%	19.4%	15.2%	10.7%	12.5%	2.7%	10.8%
9 商売や事業経営に不利	0.0%	0.0%	7.6%	6.8%	3.8%	1.8%	4.1%
10 勤務地、通学地が遠い	8.3%	9.7%	6.1%	6.8%	3.8%	0.0%	4.6%
11 進学など教育環境が悪い	4.2%	35.5%	12.1%	8.7%	3.8%	0.0%	7.7%
12 町民の人間関係に不安がある	4.2%	12.9%	12.1%	13.6%	8.8%	6.3%	9.9%
13 親族、知人がいない	12.5%	16.1%	9.1%	11.7%	18.8%	19.8%	15.2%
14 土地柄が好きになれない	0.0%	6.5%	9.1%	4.9%	1.3%	1.8%	3.9%
15 特にない	12.5%	3.2%	7.6%	2.9%	6.3%	7.2%	6.0%
16 わからない	0.0%	3.2%	1.5%	5.8%	3.8%	4.5%	3.9%
17 その他	4.2%	6.5%	12.1%	5.8%	13.8%	12.6%	10.1%

家族構成別

項目	ひとり暮らし (105名)	夫婦のみ世帯 (151名)	ひとり親世帯 (21名)	夫婦と子からなる世帯 (88名)	三世代（親・子・孫）世帯 (13名)	その他 (31名)	全体 (409名)
1 居住環境が悪い	11.4%	12.6%	4.8%	9.1%	0.0%	19.4%	11.2%
2 交通の便が悪い	49.5%	65.6%	61.9%	53.4%	38.5%	61.3%	57.5%
3 自然環境が悪い	2.9%	1.3%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	2.0%
4 買い物する場が少ない	42.9%	58.3%	66.7%	51.1%	53.8%	54.8%	52.8%
5 福祉・医療環境に不安がある	26.7%	50.3%	52.4%	37.5%	38.5%	45.2%	40.8%
6 災害や交通事故等の危険が多い	0.0%	3.3%	0.0%	1.1%	7.7%	0.0%	1.7%
7 子育て環境に不安がある	2.9%	2.6%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	2.9%
8 自分にあう職場がない	12.4%	8.6%	9.5%	12.5%	23.1%	9.7%	11.0%
9 商売や事業経営に不利	4.8%	4.6%	0.0%	3.4%	0.0%	3.2%	3.9%
10 勤務地、通学地が遠い	3.8%	5.3%	4.8%	5.7%	0.0%	3.2%	4.6%
11 進学など教育環境が悪い	3.8%	2.0%	9.5%	21.6%	15.4%	6.5%	7.8%
12 町民の人間関係に不安がある	8.6%	9.3%	4.8%	12.5%	0.0%	12.9%	9.5%
13 親族、知人がいない	28.6%	12.6%	9.5%	9.1%	7.7%	9.7%	15.4%
14 土地柄が好きになれない	3.8%	2.0%	0.0%	8.0%	0.0%	6.5%	3.9%
15 特にない	10.5%	2.6%	4.8%	5.7%	15.4%	6.5%	6.1%
16 わからない	2.9%	4.0%	0.0%	5.7%	0.0%	3.2%	3.7%
17 その他	9.5%	10.6%	28.6%	8.0%	7.7%	6.5%	10.3%

出身地別

項目	下川町出身 (122名)	下川町出身以外 (292名)	全体 (414名)
1 居住環境が悪い	14.8%	9.6%	11.1%
2 交通の便が悪い	66.4%	54.1%	57.7%
3 自然環境が悪い	0.0%	2.7%	1.9%
4 買い物する場が少ない	59.8%	49.3%	52.4%
5 福祉・医療環境に不安がある	42.6%	40.8%	41.3%
6 災害や交通事故等の危険が多い	1.6%	1.7%	1.7%
7 子育て環境に不安がある	3.3%	3.1%	3.1%
8 自分にあう職場がない	9.0%	11.6%	10.9%
9 商売や事業経営に不利	3.3%	4.5%	4.1%
10 勤務地、通学地が遠い	5.7%	4.1%	4.6%
11 進学など教育環境が悪い	6.6%	8.2%	7.7%
12 町民の人間関係に不安がある	6.6%	11.3%	9.9%
13 親族、知人がいない	9.8%	17.5%	15.2%
14 土地柄が好きになれない	1.6%	4.8%	3.9%
15 特にない	6.6%	5.8%	6.0%
16 わからない	4.1%	3.8%	3.9%
17 その他	5.7%	12.0%	10.1%

居住年数別（移住者のみ）

項目	１年以内 (10名)	３年以内 (33名)	５年以内 (22名)	１０年以内 (37名)	２０年以内 (39名)	３０年以内 (40名)	それ以上 (111名)	全体 (292名)
1 居住環境が悪い	0.0%	9.1%	4.5%	13.5%	12.8%	10.0%	9.0%	9.6%
2 交通の便が悪い	60.0%	42.4%	45.5%	45.9%	59.0%	65.0%	55.9%	54.1%
3 自然環境が悪い	0.0%	0.0%	4.5%	2.7%	2.6%	0.0%	4.5%	2.7%
4 買い物する場が少ない	40.0%	51.5%	31.8%	48.6%	53.8%	57.5%	48.6%	49.3%
5 福祉・医療環境に不安がある	40.0%	39.4%	31.8%	29.7%	41.0%	47.5%	44.1%	40.8%
6 災害や交通事故等の危険が多い	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	2.6%	0.0%	2.7%	1.7%
7 子育て環境に不安がある	0.0%	6.1%	4.5%	5.4%	0.0%	5.0%	1.8%	3.1%
8 自分にあう職場がない	10.0%	3.0%	9.1%	21.6%	25.6%	15.0%	5.4%	11.6%
9 商売や事業経営に不利	0.0%	6.1%	0.0%	2.7%	7.7%	5.0%	4.5%	4.5%
10 勤務地、通学地が遠い	10.0%	6.1%	0.0%	8.1%	2.6%	10.0%	0.9%	4.1%
11 進学など教育環境が悪い	0.0%	15.2%	18.2%	10.8%	15.4%	10.0%	0.9%	8.2%
12 町民の人間関係に不安がある	0.0%	15.2%	9.1%	16.2%	17.9%	7.5%	9.0%	11.3%
13 親族、知人がいない	20.0%	6.1%	18.2%	24.3%	12.8%	22.5%	18.0%	17.5%
14 土地柄が好きになれない	0.0%	3.0%	9.1%	2.7%	12.8%	10.0%	0.9%	4.8%
15 特にない	10.0%	9.1%	0.0%	5.4%	2.6%	5.0%	7.2%	5.8%
16 わからない	0.0%	3.0%	9.1%	2.7%	0.0%	2.5%	5.4%	3.8%
17 その他	30.0%	12.1%	18.2%	8.1%	10.3%	7.5%	12.6%	12.0%

速報値

【問 22】あなたはこれからのまちづくりにおいて、どのような政策に重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から選び、番号に○印を付けてください。（いくつでも可）

年代別

項目	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	全体
	(57名)	(93名)	(160名)	(203名)	(203名)	(414名)	(1130名)
1 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」	22.8%	31.2%	38.1%	38.4%	36.9%	29.0%	33.3%
2 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」	15.8%	21.5%	26.3%	28.1%	29.1%	21.5%	24.4%
3 新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出	15.8%	21.5%	20.0%	15.8%	23.6%	17.4%	18.8%
4 子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり	42.1%	62.4%	41.9%	31.5%	33.5%	26.8%	34.7%
5 子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり	38.6%	53.8%	38.8%	34.5%	26.6%	18.1%	29.5%
6 健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり	19.3%	24.7%	23.1%	24.1%	24.1%	30.4%	26.1%
7 高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり	1.8%	18.3%	25.0%	27.6%	38.4%	39.9%	31.6%
8 快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）	14.0%	23.7%	25.0%	20.2%	24.6%	13.5%	19.2%
9 公区や集落ごとの特色やまとまりを生かす分散自立型の自治の推進	5.3%	4.3%	3.8%	4.4%	5.9%	8.5%	6.1%
10 森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）	21.1%	19.4%	19.4%	13.3%	14.8%	11.4%	14.6%
11 再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進	10.5%	20.4%	21.9%	21.7%	21.7%	10.9%	17.1%
12 仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進	15.8%	18.3%	20.0%	19.2%	25.6%	14.3%	18.4%
13 地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進	10.5%	16.1%	21.3%	15.3%	19.7%	15.9%	17.0%
14 特にない	5.3%	4.3%	3.8%	4.4%	3.0%	9.7%	6.0%
15 わからない	8.8%	8.6%	8.1%	11.8%	8.4%	15.0%	11.4%
16 その他	3.5%	2.2%	3.8%	1.5%	0.5%	0.7%	1.5%

項目	ひとり暮らし (261名)	夫婦のみ世帯 (411名)	ひとり親世帯 (57名)	夫婦と子からなる世帯 (273名)	三世代（親・子・孫）世帯 (45名)	その他 (68名)	全体 (1115名)
1 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」	33.0%	36.7%	21.1%	34.4%	40.0%	20.6%	33.6%
2 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」	21.1%	28.5%	17.5%	28.2%	15.6%	13.2%	24.7%
3 新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出	22.6%	21.2%	5.3%	18.7%	8.9%	10.3%	18.9%
4 子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり	32.2%	30.2%	26.3%	49.5%	46.7%	11.8%	34.7%
5 子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり	25.7%	23.8%	26.3%	45.8%	33.3%	13.2%	29.5%
6 健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり	27.6%	29.4%	29.8%	22.7%	20.0%	16.2%	26.2%
7 高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり	30.3%	36.3%	35.1%	27.8%	28.9%	20.6%	31.5%
8 快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）	21.1%	18.7%	10.5%	20.1%	20.0%	19.1%	19.3%
9 公区や集落ごとの特色やまとまりを生かす分散自立型の自治の推進	6.1%	7.8%	5.3%	5.9%	0.0%	0.0%	6.0%
10 森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）	19.2%	13.4%	7.0%	15.0%	6.7%	17.6%	14.8%
11 再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進	19.5%	14.6%	10.5%	21.2%	13.3%	17.6%	17.3%
12 仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進	21.5%	18.0%	15.8%	20.1%	13.3%	10.3%	18.6%
13 地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進	18.8%	16.3%	15.8%	17.2%	20.0%	14.7%	17.1%
14 特にない	5.4%	5.1%	7.0%	4.8%	6.7%	14.7%	5.8%
15 わからない	10.7%	10.9%	17.5%	8.4%	8.9%	25.0%	11.4%
16 その他	0.8%	1.2%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	1.4%

項目	下川町出身 (376名)	下川町出身以外 (753名)	全体 (1129名)
1 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」	34.6%	32.7%	33.3%
2 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」	27.4%	23.0%	24.4%
3 新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出	20.2%	18.2%	18.9%
4 子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり	36.7%	33.7%	34.7%
5 子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり	27.1%	30.7%	29.5%
6 健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり	20.7%	28.8%	26.1%
7 高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり	30.6%	31.9%	31.4%
8 快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）	17.8%	19.8%	19.1%
9 公区や集落ごとの特色やまとまりを生かす分散自立型の自治の推進	6.6%	5.8%	6.1%
10 森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）	14.1%	14.9%	14.6%
11 再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進	15.4%	17.9%	17.1%
12 仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進	16.0%	19.5%	18.3%
13 地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進	17.3%	16.9%	17.0%
14 特にない	5.6%	6.4%	6.1%
15 わからない	10.6%	11.8%	11.4%
16 その他	1.6%	1.5%	1.5%

居住年数別（移住者のみ）

項目	１年以内 (33名)	３年以内 (48名)	５年以内 (45名)	１０年以内 (80名)	２０年以内 (100名)	３０年以内 (93名)	それ以上 (350名)	全体 (749名)
1 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「維持」	30.3%	39.6%	24.4%	32.5%	32.0%	38.7%	31.7%	32.7%
2 既存産業（農林商工業）の収益と雇用の「拡大」	21.2%	31.3%	20.0%	26.3%	24.0%	22.6%	21.4%	23.0%
3 新産業創造（再生可能エネルギー産業など）や新起業による地域経済活性化と雇用の創出	18.2%	29.2%	24.4%	25.0%	21.0%	10.8%	15.7%	18.3%
4 子どもを産み、育てやすくなるための仕組みづくり	24.2%	47.9%	51.1%	43.8%	39.0%	31.2%	27.7%	33.9%
5 子どもの育成環境（学力・経験（文化・スポーツ）など）の仕組みづくり	27.3%	50.0%	37.8%	36.3%	41.0%	33.3%	22.3%	30.6%
6 健康づくりや生きがいづくりのための仕組みづくり	24.2%	31.3%	26.7%	27.5%	23.0%	25.8%	32.0%	28.8%
7 高齢者が活躍でき、暮らしやすくなるための仕組みづくり	15.2%	29.2%	15.6%	21.3%	28.0%	38.7%	38.0%	32.0%
8 快適かつ利便性の高いコンパクトなまちづくり（集住化や機能集約）	18.2%	41.7%	17.8%	22.5%	22.0%	20.4%	15.4%	19.6%
9 公区や集落ごとの特色やまとまりを生かす分散自立型の自治の推進	3.0%	4.2%	8.9%	1.3%	5.0%	5.4%	7.4%	5.9%
10 森林など自然環境の保全や活用（生物多様性保全・自然再興など）	30.3%	31.3%	26.7%	21.3%	15.0%	10.8%	9.4%	15.0%
11 再生可能エネルギー（バイオマス・太陽光・雪氷など）の推進	18.2%	25.0%	33.3%	25.0%	24.0%	14.0%	12.6%	17.9%
12 仕事や暮らしにおける省エネルギー（住宅改修など）の推進	18.2%	18.8%	22.2%	13.8%	24.0%	20.4%	19.1%	19.5%
13 地球温暖化への適応策（地球温暖化に適した農業・林業など）の推進	12.1%	12.5%	17.8%	15.0%	21.0%	18.3%	16.9%	17.0%
14 特にない	3.0%	0.0%	6.7%	2.5%	4.0%	5.4%	9.4%	6.4%
15 わからない	3.0%	4.2%	13.3%	8.8%	7.0%	10.8%	15.7%	11.7%
16 その他	9.1%	2.1%	0.0%	3.8%	2.0%	1.1%	0.3%	1.5%

⑦ 自由意見

【問 23】下川町のこれからのまちづくりなどについて、ご意見・ご提案などを自由に記入してください。

※主な意見を、誤字脱字も含めて、そのまま記している。

1. 行政・町政運営

- 役場行政改革は可能なのか、財源は？
- 役場主催の町長とのタウンミーティングはやるべき。対話と意見交換は必要である。町民税を勝手に使われているとの疑問も一部を反映しているので、審議会・検討会・予算総会など、一般町民への知らせが必要である。
- 補助や助成に対する成果と効果を見極めて欲しい。黒字法人に補助や助成が必要か？ 議員ももっと勉強して質問して欲しい。調べれば分かるような質問、答えが出せない質問、質問のための質問が多すぎやしないか？ と感じられることが多い。 もっと町民生活に寄り添って欲しい。 この町は田舎者が都会ぶってる、そんな感じがする。
- 町の現状などがわかっていない設問になっている。ピントがずれている。[一部省略]（五味温泉に対する）４千数百万円は町が返還を求めるべき。一部の仲間だけで町政を行っており、排除されている人が多い。転出者が非常に多い。移住者が数年後転出している。町がどよんでいる。調査、講演などではなく、具体的な事業、行動を起こす時期である。中期３年間で何かよくなったもの、ことがあるのか疑問。無策であった。※注記：［一部省略］は、特定の個人に関する記述のため非公表とした部分です。（）内は町による補記です。
- 良い所をアピールするのは大事だけど不祥事に関してはきちんと解決させて下さい。五味温泉問題に関しての対応の悪さに理解が出来ません。本当に全額回収出来ると思ってるのでしょうか？民間企業では考えられません。良いものに蓋をするのはやめて下さい。
- 五味温泉の不正な会計処理は終ったのでしょうか？誰も責任をとらないのでしょうか？赤字続靠とはうわさで聞いていましたが経営そのものに問題があったのか検証してもらいたいものです。それのなかで町長のオリンピック視察は公費での参加と聞きました費用対効果はあるのでしょうか？疑問に思います。
- 五味温泉の会計処理と責任を終ていないところでの公務を理由に公費でオリンピック見学は町民感覚とはずれてますよね。それより町内の舗装などの穴ぼこを修理する方がいいのでは！
- 五味温泉はどうなりましたか。知らせるべきではないでしょうか。もっと公表をして。
- 行政情報の情報提供をもっと充実して下さい。
- 意見を書いても無駄だと周囲に思わせないような信頼関係作りが大切だと思う。とは言え 頑張ってくれている人も たくさんいると思う。ありがとう。
- このアンケート、特に自由意見をしっかりと広報し、問題意識の共有を計って欲しい。このままいくと下川町が無くなっていくこと。 それと、前回の総合計画では、特に教育の取り組みにおいて、現状分析と問題認識はできているが、取り組みの具体策がその解決になっていなかったため、今回の計画でしっかりとしめして欲しい。特に高校を町立とするのか、したとして、魅力的なものにするにはどうすべきか、、、。
- 「次の中から選ぶ」という問いかけをするかぎり、新しいアイデアは生まれることはない。アンケートが「やった感」・「生鮮点数」を印象づけるだけの手段にならないように お願いしたい。SDGs や「ジャンプ」にこだわらずに 新しい下川を作る覚悟が必要。フロンティアスピリットを思い出せ！直民だろ？
- まちづくりについては現在十分に研究し、取り組みが進められていると思っています。

2. 移住・定住・人口対策

- 本町が展開する環境先進都市や移住促進等のプロモーション戦略は、投資対効果の検証を欠いた政策的な怠慢である。耳障りのよい誘い文句を並べるよりも、足元の生活基盤や福祉を充実させる具体的な施策を行うほうが、結果として確実な移住定住に繋がる。 発信されるイメージと住民生活の実態とのギャップ分析を怠り、ミスマッチによる早期流出を招く現状は、単なる税金の浪費に他ならない。民間資源が限定的な地方自治体において、行政の真の存在意義は、外向けの認知度獲得ではなく現住町民の生活の維持向上である。 イメージ先行のまちづくりは町の消滅を加速させる。実を伴わないスローガンの踏襲を直ちに止め、住民が暮らしやすさを実感できる具体的施策へ予算と労力を集中的に投下すべきだ。
- 移住者を呼び込む政策から、定住者が永く住み続けられる政策に転換していっていただきたい。 外に魅力を発信するのも良いですが、町民にもっと目を向けて、町民に魅力を感じてもらえる政策を進めていってください。 誰ひとり取り残されない町を目指すなら、各年代の単身者も取り残さないでください。 特に住環境に関しては、働き盛りの単身者は住む場所に困る町だと今のところ思います。 さらに魅力溢れる良い町になる事を期待しています。
- 移住者ではなく、昔から住んでいる町民にもう少し目を向けてほしいです。
- 移住者として生活し 3 年が過ぎましたが、以前から下川で暮らし続けてきた方々と移住者との間の意識の差を強く感じます。移住者は、この生活環境に魅力を感じて従来の場所から移り住むことを決め、この町の良さを少しでも取り入れようという考えから暮らしを組み立てているように見受けられます。一方で、以前から暮らし続けている方々は、「自分たちが今の暮らしを続けていければそれで良い」と、未来のことは関係ないという考えの方が多いと感じます。行政は、あらゆる施策を通じてこの町の魅力を町内外へ広く発信し、人手不足や人口減少を食い止めようという考えがあると思いますが、町を創るのは民間（住民）だと思います。住民一人ひとりが、より良い未来のためにそれぞれできることを実践していけば、未来は必ず良くなると信じています。しかし、一人でも「自分は関係ない」という人がいると、その取り組みも無駄になってしまいかねません。行政には、そんな住民の取り組みを少しでも前に進められるよう、小さな町ならではの柔軟かつ手厚いサポートを期待します。
- 移住政策について、誰でも彼でも移住して欲しいと言うやり方は将来犯罪等を起こる気がしてます。この件で関わる人達で移住する地域の人間と変えないでよくない事を言ってします人がいて、よくにより周りの人間に不安を与え悲しんでます
- 他の町から移住してきましたが、 ゴミを出さない意識や分別、ゴミが街に落ちていないなど、環境への意識が高いように感じています。これはとても良い特徴のように感じています。
- 他の町村が抱える課題と同じく高齢化が加速度的に進んでいる。移住者に手厚い助けがあるが、それが地元住民のメリットになっていない。子供を産み育て人口減に歯止めを掛けるために具体策がほしい。薄味のアイデアでは解決策はしない。税金の充実！
- 入口を増していく様な社会にしてほしい。
- 下川町に来る移住者の方々は、都会で特殊な経験を積んだ方が一定数居ると思います。一方で、元から住んでいた方が、下川で生れ育った子供との交流の機会が少ないです。高知能者の都会流出が著しい昨今、都市水準の教育の機会が花若男女問わずにあれば良いと思います。脱資本主義的な思想を持っている方の取り組みが活発になると良いと思います。
- 町に人が増えてほしい。
- 人口流出を始め移住の促進、しもかわ財団の職員以外でも色んな情報をおもちの一般の方が居ると思います。そんな方達を推進委員とかになってもらい活動してもらう。産業振興による雇用の創出、下川町にマッチする企業誘致の研究班を作る。補助金等を使い、色んな部門の地域おこし協力隊を雇う。声の大きいい人の意見は、拾われているようですが、小さい声にも耳を傾ける努力をして欲しいです。

3. 産業・経済・雇用

- 林業・農業で生計をたてられない けれども 森を豊かにする事が大切。山の栄養が川に流れ 海に流れ 全て繋がっている。今の自然を大切に未来に残せる様考えて欲しい。渚上の実くらは ミカン 1 箱の苗から始まり町民皆で株を分け植えて今の機となったそうです。下川も他に無い事ができたらいいと思います。
- 下川町の最大の資源である「森」を軸に、林業・農業・観光・食・エネルギーを横断的に結びつける産業づくりを進めてほしい。特に、町有林の持続可能な管理という強みを、商品開発・観光・教育に広げることで、地域経済の循環を生み出せると思います。 下川町の未来は「人口を増やす」よりも、「小さくても持続できる循環型の地域経済」をどう再構築するかが重要だと考えています。森という唯一無二の資源を軸に、産業・教育・移住・観光をつなぐことで、町の魅力と働く場を同時に増やすことができると思います。
- 森林を有効活用、後継を通して行う農業支援産業・バランス（廃材の建築がつくれること）、国有林の取得によるブランド材木の拡大
- 合意形成も大切ですが、再エネや環境保全型の産業など下川らしい強みを絞って打ち出す施策がないとジリ貧が進行してしまう気がします。
- 少子高齢化はさけられないので 7 番 8 番を活用してもっと高齢者を働かせるべき。地域再生エネルギー、雪、氷を利用して 3 番を進めれば、移住者も増え、子供も増える。太陽光発電はあとで産業廃棄物が大量に出るから反対
- 太陽光パネル不要。
- 新産業創造による財政の改善および雇用機会の創出。五味温泉のリニューアルによる来客の増加、道の駅開設の検討と実現、下川産トマトジュース、手延べうどん等の全国展開（情報発信の強化）
- 新産業創造で外のエネルギーを入れる必要がありますが、利益が外に出ていくのも困ったものです。それ以上にそれを利用し利益をあげれば良いか。補助金ねらいので、無くなったら次へと行く。昔の考えですが、額に汗をかいて頑張る人のゴツイ手に、おいしい水を飲ませてあげたい、と思う老人が居てもよいでしょうか。皆さんで話し合っては、そして話を聞いては。おつかれさまでした。
- 新たな施設や大規模な事業（いわゆる箱物）を先行して整備する前に、まずは十分な調査や検証、学習が必要ではないかと思います。[一部省略]。※注記：[一部省略]は民間事業者の個別情報に係る記述のため非公表とした部分です。
- 将来性のある企業や町や町民に役に立っている企業、頑張っている企業などに、支援する為の補助金などがあれば良い！
- 農業分野の新規参入も大事だが、すでにいる農業人も大切にしてほしい
- 農、商ともに、固執せず、元気なうちに継承・譲渡出来るよう、どちらにもメリットのある仕組みづくり
- 今後も町として経営継承に力を入れていくのであれば、もう少し町が関与する姿勢を高めた方がいいと思う。実際私が経営継承を目指すにあたって、町から継承元と当事者間で決めて欲しいと言われたケースがあり、今回たまたまトラブルには至らなかったが、今後トラブルが原因で町への定住を諦めたりするケースも発生し得ると思う。 また、町の担当者に経営継承に関するノウハウが少なく、場当たり的な対応になっていると感じる。道内や本州も含めた他の地域で一般的にどのような継承が行われているか把握した上で下川町としてのやり方を決めていくべきだと思う。
- 下川町に残ってる主な産業は 1 次産業です。もっと元気な産業になって、安心安全な商品作りで、個性的な商品作りが必要だと思います。
- 精神発達障害者の雇用サポート 就労の受け入れ企業増やす。
- 女性で自営している人は、出産などで働けなくなるので、金銭面での助成があると助かると思う。（家族のためにも）
- アイスキャンドルの利用をもっといかす！！特産品の開発ー企業補助を出す。林産業に対する強い支援！！特に製剤とか工業に必要である。

4. 観光・まちの魅力発信

- 魅力発信について、インフルエンサーや有名人を採用し知ってもらう機会を充実させればいいと思います。安直な意見ですが、若年層の興味を引くと町は盛り上がると思います。
- 万里の長城以外「道の駅」が下川にあると観光客も増えると思います。下川町の魅力が今ひとつ何もない。
- 下川町の観光資源の 1 つである万里の長城の顔先への取組み・長城ボルタリング世界大会、50 のクラス 100 のクラスなどでタイムトライアル・グッズがかぶん、・バーチャル観光、QR コード
- 国道沿いは町の顔だと思います。今の下川町は他の地方の方が通っても何も魅力が無く通りすぎるだけと感じます。国道沿いに人が集まる所が、地方の方が立ち寄って泊まって来れる場所が必要と感じます。道の駅のような建物、町民を楽しめる場所、国道沿いをもう一度見直して下さい。下川町は誇れる町だと思ってもらえるように願います。
- 五味温泉施設の大規模改修の計画促進 大きな観光資源です。迅速な取組が必要です。
- しいたけを食べに来たい町外の人が出来るような、お店があれば。しいたけは、日持ちが少ないので、ヤナイのパンでないけれども、出来上がったしいたけ料理を買って帰る人が増えたら。トマトもそうですが。
- トマトはジュース以外の製品開発を。鹿肉の活用。夜間の子供も行けるような飲食店。ラーメン、そばの飲食店
- オンリーワンの商品を作り、時間をかけても、外に向けて。たとえば万里の長城にかかわり、飲みながらグッズ キャラクター 他

5. 商業・地域店舗

- 移住者が増え新しいお店が増えてきてるけど、お店を開くのは簡単でも、長く続けて行くことは容易ではないと聞きました。 今町内で昔からあるお店は、相当なお店の努力と、なにより町民に必要とされているお店ばかりです。なくなると不便さが増します。ただでさえお店が閉店していって不便なのに。 新規のお店に支援ばかりじゃなく、もっと町民に必要とされてる、町民のために頑張って続けているお店に、町として支援があってもいいと思う。全てのものが値上がりしてる今、このままでは何年、何十年と続けてきたお店が短い間にどんどん潰れていくと思います。 それと、町長の SNS を見てると[一部省略]など、あまりにも偏りすぎてて残念な気持ちになります。そのお店さえあればいいのかなと感じます。 大好きだった下川町だったけど、今は仕事が落ち着いたら違う町に行こうと思っています。※注記：[一部省略]は民間事業者の個別情報に係る記述のため非公表とした部分です。
- 町内の各店舗の有効活用の推進
- おもしろい町だと思います！！今あるお店をどうかつぶれないように。これからできるお店・サービスがあれば どうか支援を。第 2 の南幌町のようになってほしいと思います
- 昼に食事を取れる場所が少なくなってきています。ラーメンや定食が食べれるお店が欲しいです。店開店に向けた町の補助金などあれば町外に向けてアピールしてお店の誘致を！

6. 医療・保健

- 夜具合が悪くなった時遠くて病院に行く手段がない。
- 体調が悪い時、タクシーに連絡がつかなくてとても困りましたし、下川に住んでいて不安です。スーパー（Q マート）でもタクシーに連絡がつかなくて困っている高齢の方を見た事もあります。もう 4～5 年前の事ですが、今もそうなのかとても気になります。まちづくりで今一番思うのは、安心してずっと住める下川があると良いと思います。
- 歯科医院があればいいと思います（同様の回答が 4 票）。

- 後期高齢者になり病気との付き合いが多くなります。町に内科はありますが、外科・歯科等は名寄まで行かなくてはなりません。それ等の送迎の便利を図ってくださると大変ありがたく思います。活発に努めておりますが、老後の積極的な場所（健増地）があると安心なのです。
- 町立病院を利用しない、家庭からみれば そこにあてられている予算がとても無駄だと思う。近隣の市病院が主手だというのであれば 周りの町村がそちらに予算を回すべきだと思う。産科・小児科等 なくなると大変な部署がある病院を 1 本だけで 運営するのはいかがだろうか？ 特にうちは 町立に関しては 不快な思いをさせられているし・熱とのどの痛みで受診、コロナ検査もせずコロナではないと判断、にもかかわらず薬（のどの痛み用）のんで冷えかったら市立に行ってくれ、と。そして 11 月、風強くみぞれのふる中 看護師に 外にでてまっている、と。玄関フードの中にもいるか、と。・子供の熱けいれんで救急車、まわりだから と町立による、けいれん止めの薬を注射 → 市立へ搬送。よけいな薬を入れたせいで 熱けいれんだったかの判断つかず入院へ。・インフルで 40°のため、検査しなければ薬はせないとのことで 3 時間ほど待ち 診察 → まわりにインフルの人がいるならインフルだね し検査せず、字まあまりにも難。家族全員コロナにかかり（コロナ報当時）子供を病院にかからせたかったとき 多病町立に電話をしたら係の所定に 町立に かかって欲しいといわれて、なんとか頼みこんで 市立で見てもらった事もあり、正直 あるだけで迷惑だと思った。とにかく若い人たち、家庭のある人は 町立を利用しない人も多く、こんびの課題にして欲しい。（廃院等含めて）
- 医療はオンライン診療などと連携して、皮膚科など幅広く診察・処方箋を提供できるようにすべき。現在はすぐに「名寄で診てもらって」で完結することが多く、町立病院の利用に結び付かない。利用してもらえる仕組みにする必要がある。鍼灸や整体・マッサージ、漢方治療なども町内でできる体制を求む。

7. 福祉・高齢者支援

- 福祉タクシーの件ですが、各地の病院に行くのに夫婦（高齢） 一人が行くのに二人を家に留守させたくないので乗せてほしい。患者しか乗れないので困っている方が多いのですが――
- ハイヤーの時間、今は五時で終りですけど、せめて七時位でしてほしい。ハイヤ会社に話して欲しい。高齢者が多い為。
- 高齢者が住みやすい街づくり 自動車免許返納後の移動手段 買い物や通院
- 自宅での生活が不可能となっている高齢者を受け入れる場所がない。特にあけぼの国の人材不足は深刻であると思う。
- あけぼの風の支援ハウスを、もと多くてほいです 国民年金の人は外の施設には入れませんので よろしくお願がい致します
- 子供が他市町村にいる 歳を重ね 働けなくなる前に 子供の力になることをさせてもらう 機会があったとき 気くばりに気をつかわさていただき くらしが不安なく 生活できる場所や人間関係づくりを（人間関係）に力を入れてほしい
- 高齢者にもっと配慮していただいてありがとうございます これからもよろしくお願いします 娘と同居している為 私自身の年金だといろいろな補助サービスが受けられないのに 娘が働いている為 補助が受けられなく 娘にかかり頑張らなくてはなりません
- 福祉環境の見直し 親対象のコミュニティ むずかしい？……でも毎日の生活が健康で楽しく生活がしたいです……
- 時間のある高齢者をもっと街の事業に参加させたい
- 市町村にあるような 下川町でも合同墓に付いて検討してほしいと思います。
- まちづくりではないと思いますが、どんどん人口も減りお墓もへっていますが身よりのない人や守る人が遠い所にいる人たちのための協同墓地(名寄は社協などでやすくやっている。一年に一度位新聞に出ていますが)そんな所があればいいと思います。
- 下川にお墓を立てました 今になったら私 1 人しかいません。でそれば共同のお墓を作ってほしいです。（遅くなってご免なさい。年をとると忘れてしまいました）
- 高齢者も大切ですが 子育て世代を大いに だいじに、支援してください。
- 高齢者は入湯券があるが子育て世代には何もない。クーポン券など配布して頂けるとありがたい。町内にいるにも関わらず、入浴するのは 2～3 年に 1 回なので、そういう特があると足を運ぶ機会が増える。
- 高齢者に税金使わず、子供や働き世代を大切にしてほしい。なぜ汗水垂らして働いて取られた税金が高齢者の護代・施礼はじめ代に使われなくちゃならない。「その医療・福祉はこの年寄りたちに必要なの？」と思うことばかり。年寄りは大事にしてばっかりすぎ。医療・福祉を望むなら 3 割負担で徴収すればいい。若い人を大事にする町になってほしい。

8. 子育て・教育

- 子育て環境について、特に乳幼児期の「あそび」を大切にできるまちであってほしいと感じています。こどもが主役となって夢中であそべる環境や地域でゆるやかに育ち合える「地域共育」の土壌が、この町の魅力につながっていると思います。そうした豊かな環境が教育移住など新たな人の流れをうみ、さらに良い循環が広がっていくことを願っています。また、乳幼児期の育ちがその後の学びにつながっていく視点を地域全体で共有していけたら嬉しいです。
- 町の施設であるこども園、町内公園利用や町内散歩が少ないことで、体力が身につかず、小学校へ上がって「体力がない」と言われている。こども園、保育内容が魅力的だと今いる子もたちの続住世帯も取り込むのではないかと思います。
- 下川のこども園では職員がクマ出没に過剰反応し外遊び機会が少ない。リスクがあるからやらないではなく体制・環境を整えれば可能かを考えることが重要。クマの気持ちになって子どもたちと一緒に考え共有することが大切。多様性を受け入れ相手のことを考え行動できる子どもに。
- 子どもたちが遊べる施設や遊具を検討してほしい。（町外からも来てもらえるような魅力のあるもの）
- 若い人が住みつくには、一定の収入があること。安心して結婚し、子づくり子育てができる環境を作る。（医りょう、公園の確保など）若い人が下川町に住みたいと思える施策を。
- 中学校の部活が変革の時期のようですが、競技レベルの低下や、備品を購入出来ないなどの不具合の無いように、補助金や外部コーチなどで今の環境を維持できるようにしてあげて欲しい
- こども達へのウィークエンドスクールの取り組みはとても良いと思います これからも続けてほしいです
- 少子化の問題、企業誘致などの政策？てあれば
- 子供達（中学・高校）とのコミュニティーの場を定期的に設ける。少子化を防ぐのは、行政のみならず経験豊富な方が、子供達に早くから基本的な事を身につけさせる。
- 下川商業高校が存続できるよう願っています。
- 下川商業高校がもっと魅力ある学校になるにはどうしたら良いでしょう。学生がたくさん居てほしいと思います。下川から出ても帰ってきて住みたいと思える人が多く居ると嬉しいですね。

9．道路・インフラ整備

- 道路が悪い・なんとかして。
- 冬の雪寄せのローラでえん石のジャリがバラバラおちて危ないので少し見まわりてひどい道はなおしてほしいです
- 町の中の道の凸凹を無くしてほしい！！林道の柴木を伐ってほしい！！新しい林業は必要ない！！林道の看板はいらない！！植栽管理の看板はいらない！！今ある道の整備、補修、維持、管理！！
- 山道などにポイ捨て・不法投棄監視、看板設置。名古屋まで行く時・下川へ帰ってくる時幹線道の草がひどすぎ目に付く。自転車やランニング中の人もいるのに手入れされていなくてがっかりする。公園を見渡すとゴミのポイ捨てをされていたりするのをみると、草原が悪く。幹線の草をなくしてもらえるとお散歩を歩きやすいかな。ランニングを改善だと思います。道も穴があいてる所が多い。車が壊れます。良回ってひどい所はなおして頂けたらありがたい。
- とりあえず水道管の交換です。
- 住みやすい街だけど、老後は住みにくい環境。 だから、インフラの整っている街に引っ越す。どの街にも言えるが、特に水道ライフラインの維持管理を考えないと街から人は間違いなく去る。
- 特に何かがすごいのではなく、基本的な「衣食住」がちゃんとしているまちづくりをやるだけかなと思います。最近は上水道と下水道が不安。目立たなくても、まあまあ住みやすく、明るい下川町であってほしいです。

- 一人暮らしで、自炊ではなく コンビニ弁当生活。シャワーも 1 日 1 回くらいに、我慢しているが 水道料金が 毎月 1.3 万以上かかっているのを いい加減 どうにかしてほしい。調査してもらった事があるが、月によってどのくらい流れているかの 具体的な数字はわからないと言われており、仕方なく水道料を払っている。
- 自分大事 水道管はどう即対応 予算が心配の中加速します。私達（街）の水道管が気に成りました。予算でやれたら出来るなら（工事等の事で）OK 毎月一手ごとに委員をして維持される事を求めます。老後なのでほうかなェ～（難読部分含む）
- 我家は名寄川とパケ川に挟まれていて、何年か前 川の氾濫があり 水門が止まれていて、ぬかりても 水門が開ていない季がありその修復事業がなりました 環境をしっかりと守って下さい。
- 矢内南谷前・しんきん前、差異南谷前、3 か所の信号点滅のタイミングを揃えて、運転がスムーズにつながるように変えて下さい。タイミングによっては、3 か所とも、ぶつかってしまう事があります。 住宅機器管理設置している・行政　公告を発見、整産後と、現場をよく積孟して、言うべく、早急な対応いたします。
- 国道を走る車のスピードがひどい。取り締まりをするべき。
- 町を病院前 にバス便は 作る事は 出来ません？時々 高齢の方から 聞く事があり 考えてみると どちらかに 降車位置 さと距離は 同じ位 下川町のバスじゃないから 無理 かけね。
- 住み続けること、くらしやすいことも もちろん大切ですが 行き来しやすいこと。閉じこめてしまわないことに 力を入れてほしいです。情報や人が 自由にとびかう 魅力的な 町 でありたく。自分もその一員 になれたら と 思います。

10. 環境・自然・熊対策

- 毎年、自宅の窓から見える範囲に熊が出没しているので、日々恐怖を感じながら生活しています。電気柵は、ただの気休めにおもえます。もっと具体的な対策を、官民一緒に考えていきたいです。
- ヒグマ対策については、生活ごみの問題よりも、地域内のデントコーン畑などが誘因の一つになっている印象があります。 そのため、箱罠の設置拡充も含め、農地周辺での出没状況を踏まえた対策強化を検討してほしいです。 実際、お隣の西興部村では林道沿いなどで箱罠を多く見かけ、野生動物対策への意識の高さを感じました。近隣自治体の取り組みも参考になるのではないでしょうか。
- 堤防の草刈り強化と熊対策。
- 農家の堆肥、液肥の悪臭を改善するよう指導してほしい 家の中でも吐き気がするほどです。
- 昔とちがって この数年の町の様変わりが早い。道がせまくて困る。牛ふんの臭いがキツイ。洗濯物の外干しをすると全て牛ふんの臭いがついてしまう。困っている。
- 冷静な「振り返り」が必要。この数十年に対する。これからの未来が有るために。

11. 住宅・空き家対策

- 町営住宅ですが、住ていく人にしっかりと清掃してもらうが、清掃ができていない場合、清掃費をとって業者を入れるべきだと思います。なぜ入る人が清掃をしないわけではないのかこの状況、不満に思っている人は多いと思います。そして、畑を手入れする時間がない人、そもそも畑を必要としていない人、そういう人の為、畑の無い住宅を今後考えてもらいたいです。
- 近年下川内でも空き家が目立ってきています。親族が亡くなり相続した空き家や家屋を持て余している人が多ければと思うのですが。複雑な手続きを町が代行や費で空き家や家屋を町に譲渡収し、町で有効に活用する事はできないでしょうか。
- 空家対策について。
- （医りょう、公園の確保など）若い人が下川町に住みたいと思える施策を。
- 旭町の公住宅の空き家が多くその内誰もいなくなるのでしょうか？ 公住が無くなるのでしょうか？

- 公住の家賃が高い！
- 住宅機器管理設置している・行政　公告を発見、整産後と、現場をよく積孟して、言うべく、早急な対応いたします。
- 例えば「21 世代の森」や家の暖房選択への補助がもらいずらい、家の心配をあります。（一部判読困難）

12. まちの清掃・景観

- 道路山道などにゴミをおけていくものがいる。今年、今年ゴミ拾いがないとん、不法物のはたをたててもらいた方。
- 町中に空き地が増えてきて、特に夏場の雑草に地主に言いづらかったり、地主が不在、不明等難しいことに、対策は難しいでしょうが検討をお願いします。
- 公園、道路 歩道 なびの 雑草がきたなすぎると思います
- クリーンアップ作戦のたびに町にごみが 1 つも落ちていない町って言えたらお金をかけずに対外的に良いアピールできるのにとかんがえます。
- 酪農家による道路の汚れの指導。

13. 町民参加・コミュニティ

- 予算にも限りがあり、人手不足や高齢化は避けられないなかで、自分の住む町のために自分が何をできるのかを考える機会の創出と提供、現有マンパワーを最大限有効活用できるよう町民が己の余力をまちのために提供できる連絡システムの構築が必要だろうと考えます。今までと状況が違うので今まで通りは通用しないので新しい発想が必要。
- 公区について、役員の担い手が見つからずに継続が難しいと聞きます。町主導で公区合併の協議や公区の課題などの課題解決になる取り組みを進めていただきたいと思います。
- 助け合いやボランティア・見守りなどが域内で循環する仕組みがより一層必要。しもりんポイントの仕組みの充実化を図ってはどうだろうか。近隣の人に頼るほうがお得と実感できることが大切。
- 芸術、文化、スポーツ活動をより活発にする施策がほしい。
- ソフトテニスを町で続ける者がいるが、町テニスコートが近況撤廃について意見があります。補修費ができない状況なのか、あと下テニスコートを一般にも利用できるシステムにできないか、町テニスコートを修繕するくらいなら下テニスコートにナイター設備をつけて欲しい。
- スキー ジャンプで来てくれていた。子供達が次々と帰ってしまった。理由を重くうけとめてほしい。町民は知っています。対応きちんとして下さい。
- コンパクトな中で皆が気持ちよく、仲良く楽しく助け合える町であってほしいと思います！
- 自由に生きられる風土 やりたいことに挑戦できるマチ 老若男女 人に優しいマチ

14. 職員・組織体制

- 問題のある上司が 5 年以上、同じ職場にいます。周りが嫌な思いをしていて、何度も訴えましたが何も改善されませんでした。下のものの意見は結局聞いてはもらえないのだと愕然としました。コミュニケーション、パワハラの研修を受けているかとおもいますが、全く活かされてるとは思いません。頑張る若者がいるのも忘れてほしく無いです。
- その前に下川町職員のパワハラをなくせ。
- 職員の異動が早く業務の質や職員のモチベーションが向上しにくいと感じます。新入職員以外や一定割合の職員など一部の職員でもいいので、同職を 4 年以上続けるなどの取組を試行してはどうでしょうか。 毎年同じ業務経験を積み重ねることにより個々の職員が既存の業務を改善する余裕や発想が生まれるのではないかと思います。また、そうした専門的な経験・知識の方

が広く浅い経験よりも町民へのサービス向上にもつながると思います。また、汚職の可能性が上がるデメリットよりもそうしたメリットの方が大きいと思います。

- 危機感が薄い。災害などはもちろんのこと行政、町内 NPO 団体など人材が不足して、仕事を確めるまたは仕事が欲しくなることが考えていない人たちがいる。事業者 会社経営者は危機感ゆえ温度差がある。コモビに入っている団体法人が特にひどい。対応も悪い。どうして外貨を稼ぐというマインドが必要。下川町民全体が「それ、いいね」と呼ばれることをベースに町外から移住する人にさらに魅力的にならないと、町は衰退するだけだ。
- 町職員が将来の下川ビジョンをチャレンジ精神を持って語っているような挑戦に寛容なまちづくり。

15. アンケートへの意見

- このアンケートをもう少し短くする、分けるなどをした方がいいと思います。一度に応えるには長いです。
- とりあえず紙がもったいないと感じました。QR コードの配布のみで良いかと。もっと若い世代にこのようなアンケートをやらせた方が画期的な意見が出るのでは。これからの日本 町の将来を担う若者の考えが必要かと思います
- アンケート集約は必要と思うが設問が多すぎると思いました。もう少し絞った方が沢山の方から返信をもらえるのではないかと思います。
- 80 才以上の高齢者にアンケート調査をされてもなかなか有益な意見は得られないと思われます

16. 感謝・総論・その他

- 下川町が住み良い町で有ってほしいですね。
- 下川はとても住みやすいので、ずーっと住み続けたい町です。もっと情報がひんぱんにあった方がいいのかな。例えば新庁舎移転の件についてなど。あと災害のときに手助けが必要な方のマップを作るという話もあったけど、進んでいるのかなあと思ったり。山びこ珈琲町長店長またやってほしいです。今回は都合悪くて行けなかったので。
- 生活には申し分なく住みやすい所です。若者が少くもっと活気があれば…と思うこの頃
- 他の地域から比べて補助などは凄く手厚くされていることに感謝したいです。 子育て世代ばかりではなく 公平さがあり安心感があります。 今後ともよろしくお願いします。
- 特に何かがすごいのではなく、基本的な「衣食住」がちゃんとしているまちづくりをやるだけかなと思います。
- 自身が生まれ育った町に感謝しています。町のために、町民の方々に、お役に立てることができるよう、尽力させていただきます。
- 下川町の皆さんは、皆さん積極的で活動していますよね。本当にありがたい事です。私もお友達と、お力とか少々ですが行きたいですが、今はお手伝いが来ますので申訳ないですよ。本当にありがとうございます。
- 下川町の水道水がおいしいと他方から来た人が誉めてくれます。私も水を大切に使って居ます。（関係ない事ですけど）
- 総合計画の皆様、これからの下川町をよろしく願い申し上げます